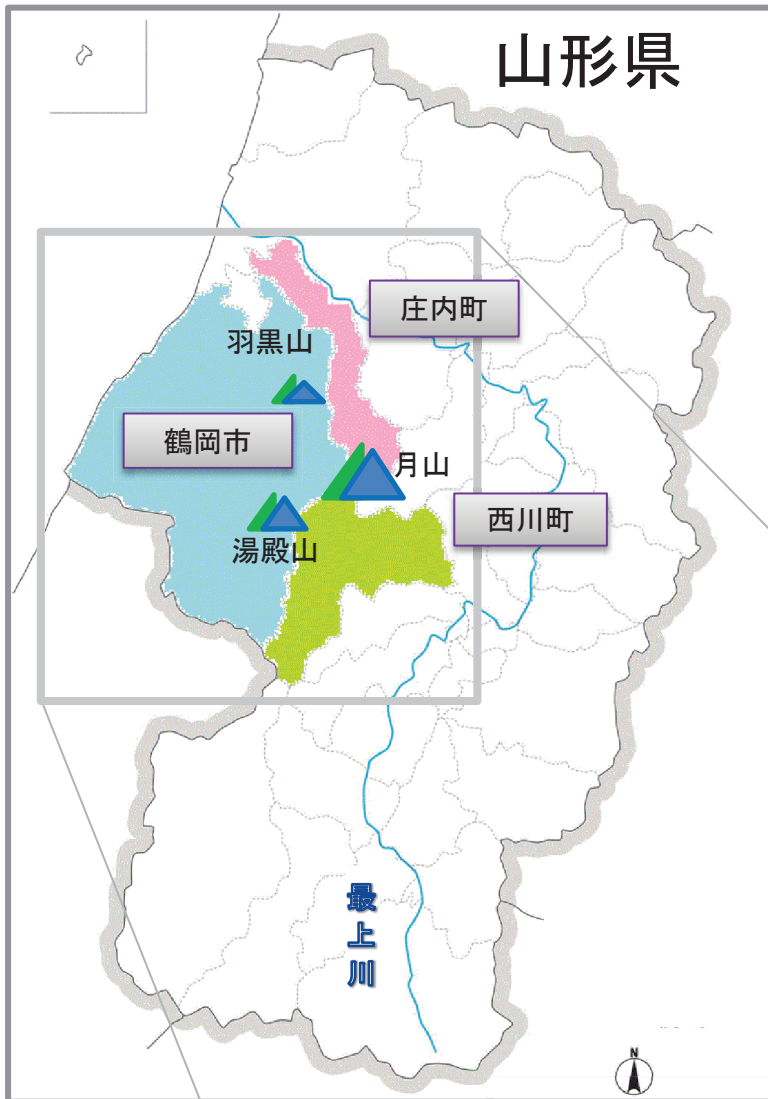


① 申請者	◎山形県 (鶴岡市、西川町、庄内町)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
<p>自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』 ～樹齢 300 年を超える杉並木につつまれた 2,446 段の石段から始まる出羽三山～ <small>でわさんざん</small></p>			
④ ストーリーの概要 (200 字程度)			
<p>山形県の中央に位置する出羽三山の雄大な自然を背景に生まれた羽黒修験道では、 <small>はぐろさん</small> 羽黒山は人々の現世利益を叶える現在の山、<small>がつさん</small> 月山はその高く秀麗な姿から祖霊が鎮ま <small>ゆどのさん</small> る過去の山、湯殿山はお湯の湧き出る赤色の巨岩が新しい生命の誕生を表す未来の山 <small>いのち</small> と言われます。</p> <p>三山を巡ることは、江戸時代に庶民の間で『生まれかわりの旅』として広がり、地 域の人々に支えられながら、日本古来の、山の自然と信仰の結び付きを今に伝えてい ます。羽黒山の杉並木につつまれた石段から始まるこの旅は、訪れる者に自然の靈気 <small>いふ</small> と自然への畏怖を感じさせ、心身を潤し明日への新たな活力を与えます。</p>			
			
羽黒山の石段と杉並木	月山		
			
湯殿山の滝行を行う御滝	松例祭の大松明行事		

市町村の位置図(地図等)



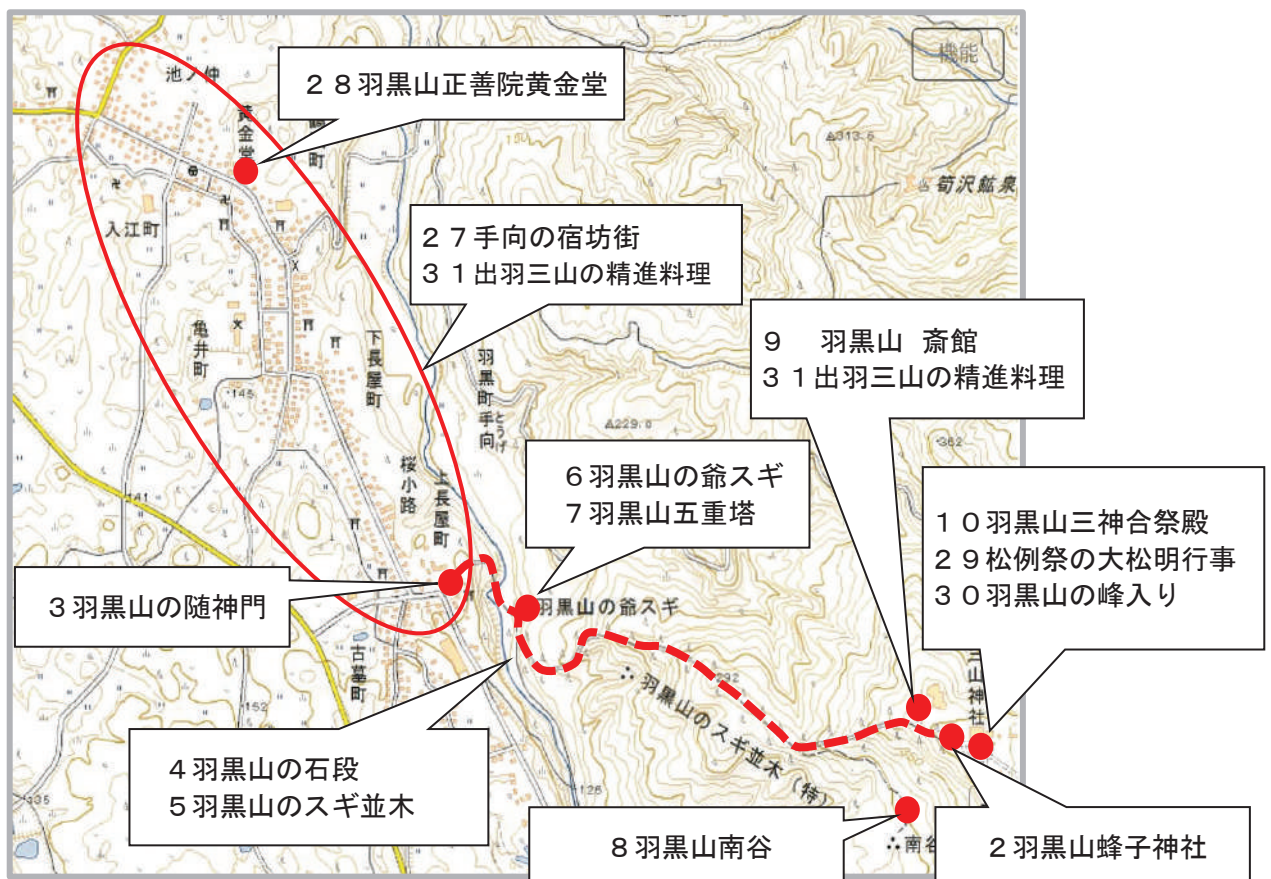
構成文化財の位置図(地図等)



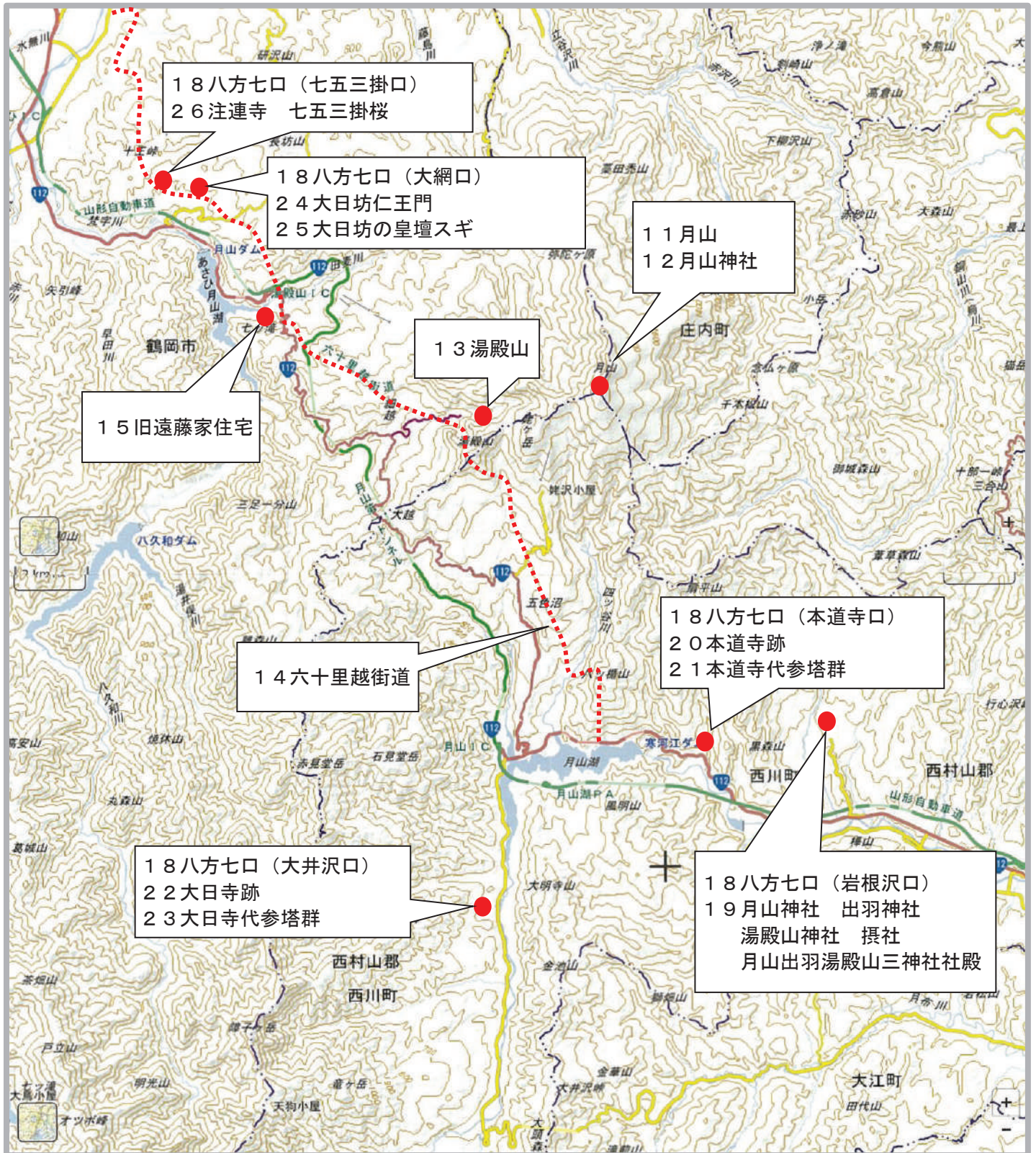
構成文化財の位置図 1



構成文化財の位置図 2



構成文化財の位置図 3



ストーリー

『生まれかわりの旅』のはじまり



出羽三山の主峰月山

出羽三山は、山形県の中央にそびえる羽黒山(414m)・月山(1,984m)・湯殿山(1,504m)の総称であり、月山を主峰とし羽黒山と湯殿山が連なる優美な稜線を誇ります。

おおよそ1,400年前、崇峻天皇の御子の蜂子皇子が開山したと言われる羽黒山は日本有数の修験道の聖地です。修験道とは自然信仰に仏教や密教が混じり生まれた日本独特の山岳信仰です。羽黒修験道では三山の特徵から、羽黒山は現在の幸せを祈る山(現在)、月山は死後の安楽と往生を祈る山(過去)、湯殿山は生まれかわりを祈る山(未来)と見立てられました。生きながら若々しい生命をよみがえらせることができるというその信仰は、江戸時代に庶民の間で現在・過去・未来を巡る『生まれかわりの旅』(羽黒修験道では「三関三渡の旅」と言う。)となって広がりました。

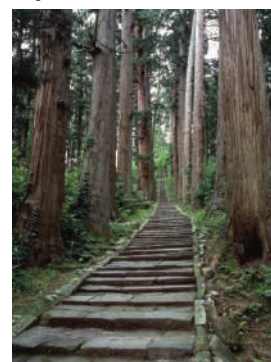
「現在の世を表す山」～羽黒山～

羽黒山は、蜂子皇子が現在の世を生きる人々を救う仏(聖観世音菩薩)を祀ったと伝わり、出羽三山の中で最も低く村里に近い、人々の現世利益を叶える山であったことから「現在の世を表す山」と言われます。



国宝 羽黒山五重塔

羽黒山の入り口、随神門から山頂までの約2kmの参道は、日本屈指の段数を誇る2,446段の石段と両側に高さ太さを競うように立つ樹齢300～500年の杉並木が続きます。参



羽黒山の石段と杉並木

道を進むとまず、開山当時から人々を見守り続ける樹齢1,000年を超える爺スギと、色彩を施さない素木造りの国宝五重塔が現れ、長い年月の風雪に耐えて凜と佇む姿は、見る者の心を捉えます。そして清々しい空気と静寂の中、石段を一段一段登り進めるうちに身も心も洗われて、深く自分を見

つめ直すことができます。山頂にある三神合祭殿は豪雪にも負けぬよう厚さ2.1mの茅葺屋根を持ち、羽黒山の祭神とともに、雪が深く冬期間の参拝ができない月山と湯殿山の祭神を合祀しています。人々はここで、国家安寧、五穀豊穰、諸願成就などの現在の世での願いを託すとともに『生まれかわりの旅』の成就を願い、月山、湯殿山を目指して旅を続けます。

「過去の世を表す山」～月山～

この地域では、太古の昔から、高くそびえる山に祖先の霊が登るといふ信仰があります。出羽三山で一際高く美しい姿を持つ月山は、「祖霊が鎮まる山」として崇められ、羽黒修験道では死後の世界は過去とみなされることから、月山は「過去の世を表す山」と言われます。

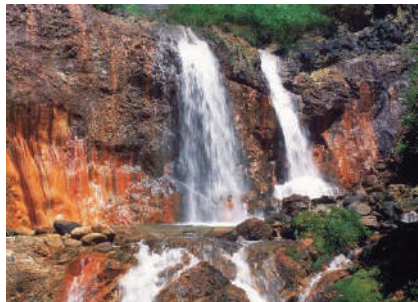
月山八合目には、極楽浄土を意味する弥陀ヶ原と呼ばれる湿原があります。ここでは、高山植物が咲き乱れ、また斜面を覆う万年雪から流れてくる冷気を感じます。その先の「行者返し」と呼ばれる急斜面や険しい岩場を越え、ようやく到達する山頂の「月山神社」に祀られる、夜を司る神(月読命)に死後の安楽と往生を願います。よく晴れた日で下界が雲海に遮られた時、月山の山頂では突然見事な光輪が仏の御来迎のごとく現れることがあります。この神秘的な現象に遭遇した人々は、月山は過去の山という思いを一層強めました。



月山の弥陀ヶ原湿原

「未来の世を表す山」～湯殿山～

湯殿山は、頂部からお湯の湧き出る赤色の巨岩である御神体ごしんたいに新しい命を産み出す女性の神秘を重ね、全てのものを産み出す山の神おおやまつみのみこと（大山祇命）が祀られたことから「未来の世を表す山」と言われます。

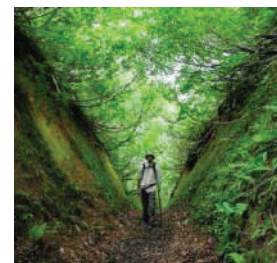


湯殿山の滝行を行う御滝

参拝者は、大自然の中で裸足はだしになって御神体ごしんたいに触れ、掌てのひらと足の裏に伝わる地熱の温かさを大地のエネルギーとして体の中で受け止めます。また湯殿山は、斜面が大きく崩れたむき出しの岩肌や、点在する大小の滝など野性味あふれる自然の特徴を活かし、滝行たきぎょうや御沢おさわ駆けなどの「荒行あらぎょう」が行われる行場ぎょうばでもあります。その苦しい修行は産みの苦しみを表すとも言います。湯殿山は訪れる者にまさに自然への畏怖いふと圧倒的な生命力を強く感じさせるので、人々はこの山に生まれかわりを祈ります。

今に息づく『生まれかわりの旅』

出羽三山を目指す人々は、山形県の内陸部と海岸部を結ぶ「六十里越街道ろくじゅうりごせかいどう」と呼ばれる陸路や最上川舟運もがみがわを利用し、三山周辺に点在する「八方七口はっほうななくち」と呼ばれる登拝口とはいぐちから登りました。江戸時代、菅笠すげがさと死者の衣装を意味する白装束しろしょうぞくをまとった参拝者の列は、笠が波打つほどに連なると言われます。街道や関所、登拝口周辺には寺や賄い小屋まかなが建ち、宿坊街が形成されて、地域に暮らす人々は、参拝者の旅の支度を整え、もてなすことを生業なりわいとしました。



六十里越街道

中でも羽黒山麓さんろくとうげの手向地区は、江戸時代には300を超す宿坊が営まれて大いに賑い、今も山伏が営む宿坊が参拝者を迎えます。山伏は、春から秋は参拝者を山に案内し、冬には東日本各地を回って出羽三山の御利益を広め、参拝者を呼び込むという活動を江戸時代から継続しています。

宿坊をはじめ、多くの民家の軒下には羽黒山の「松例祭の大松明行事しょうれいさいのおおたいまつ」で使われた引き綱が魔よけとして掛けられるなど、人々の暮らしと信仰の結び付きを見ることができます。



松例祭の大松明行事

手向の人々は、子どものころから、松例祭をはじめとする羽黒山で行われるお祭りに奉仕することや、参拝者に御祈ごきとうをしたり三山を案内する大人の姿に触れる体験を通して、山伏や三山に対する信仰を身近なものとしながら育ちます。青年期には多くの男性が「峰入りみねい」と呼ばれる山伏養成のための修行を重ね、山伏となって『生まれかわりの旅』を支えます。

また、宿坊でふるまわれる精進料理しょうじんりょうりには地元で採れた山菜が豊富に使われ、旅人の身を清め、体調を整えます。それぞれの料理には「出羽の白山島でわはくさんじま（ごま豆腐）、月山の掛小屋かけごや（月山筍の油揚げ煮）、祓川はらいがわのかけ橋（ふきの油煎り）」など三山の信仰にゆかりのある場所の名がつけられており、山伏が創作した食文化に触れることができます。精進料理の製法は、地元の食文化として発達し、今では家庭料理としても親しまれています。



出羽三山の精進料理

このように出羽三山を巡る『生まれかわりの旅』は、出羽三山信仰が日常の生活に深く根付いた地域に暮らす人々に支えられ、数百年の時を越えて今に息づいています。そして、自然の中に身を置き、自然の靈気や自然への畏怖を感じるこの旅は、訪れる者の心身を潤し、明日への新たな活力を与えます。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	羽黒山 はぐろさん	未指定	羽黒山は、現在の世を生きる人々を救う仏が祀られ、出羽三山の中で里宮としての役割を持つことから「現在の世を表す山」と言われる。三山を巡る『生まれかわりの旅』の入り口。	鶴岡市
2	羽黒山蜂子神社 はちこじんじや	市有形 (建造物)	羽黒山の開祖とされる蜂子皇子を祀る神社。もとは開山堂であったが、明治7年(1874年)に蜂子神社と改めた。	鶴岡市
3	羽黒山の随神門 ずいしんもん	未指定	羽黒山の入り口。ここから先が神域とされる石段が始まる。明治の神仏分離令以前は仁王門と呼ばれた。	鶴岡市
4	羽黒山の石段	未指定	羽黒山の随神門から山頂まで続く2446段、約2kmの石段。江戸時代に羽黒山の天宥別当 <small>てんゆうべつとう</small> が寄進や浄財を集めて整備したと言われる。約1時間かけてゆっくりと杉並木や五重塔を眺めながら一の坂、二の坂を登り、途中、茶屋で一休みができる。最も急峻な三の坂を越えると山頂に着く。	鶴岡市

5	羽黒山のスギ並木	国特別天然 記念物	羽黒山の随神門から山頂の三神合祭殿 <small>さんじんごうさいでん</small> にいたる約 2 kmの羽黒山参道の両側にならぶ杉並木。総数 580 数株を数える。樹勢すこぶる旺盛なこの杉並木は、江戸時代、羽黒山中興の祖といわれる天宥別当の植栽によるものと伝えられている。	鶴岡市
6	羽黒山の爺スギ <small>じじ</small>	国天然記念物	羽黒山の随神門から山頂までの参道途中にある樹齢 1000 年以上ともいわれる杉の古木。根周り 10.5m、幹囲 8.25 m、高さ 43mに達する。杉並木以前から生育していたもので、羽黒山で最大にして最古のものである。	鶴岡市
7	羽黒山五重塔	国宝	承平年間 (931~38) 平将門の創建と伝えられ、現在の塔は応永 5 年 (1372) 頃に建立されたと言われている。屋根は日本古来の柿葺 <small>こけらぶき</small> で三間五層の色彩を施さない素木造りという伝統的な手法による全国を代表する美塔の一つ。参道の途中にあり、参拝者の誰もが足を止めて拝まずにはいられない存在。	鶴岡市
8	羽黒山南谷 <small>みなみだに</small>	県史跡	羽黒山の石段参道を「三の坂」の手前で右折して約 400m進んだところにある史跡。江戸時代に羽黒山の天宥別当 <small>てんゆうべつとう</small> が壮大な客殿を造営させた。松尾芭蕉 <small>まつおぼしやう</small> が奥の細道行脚の折に門人曾良 <small>そら</small> と逗留 <small>とまりゆう</small> して「有難や雪をかほらす南谷」、「涼しさやほの三日月の羽黒山」と羽黒の情景を歌に詠んだ。	鶴岡市

9	羽黒山 <small>さいかん</small> 齋館	市有形 (建造物)	羽黒山の石段参道の「三の坂」を登りきったところにある。もとは華蔵院といい、かつて山内には30余の坊があったが全て取り壊される中で、明治の神仏分離の際に神社の「潔齋所」 <small>けっさいじよ</small> として残った。往時の山伏たちが生活した遺構として今に残る唯一の建物である。現在は、三山参拝の参籠や食事処として、また羽黒山伏による「冬の峰」の参籠所として使用される。	鶴岡市
10	羽黒山 <small>さんじんごうさいでん</small> 三神合祭殿	国重文 (建造物)	羽黒山山頂にある社殿。羽黒山・月山・湯殿山の三山の神々を合祭しているので三神合祭殿と称している。雪に閉ざされる月山と湯殿山の参拝・祭礼を冬期間も行えるように合祀 <small>ごうし</small> している。本社は入母屋造、茅葺 <small>かやぶき</small> で、文政元年(1818)再建。本殿前の「御手洗池」 <small>みたらしいけ</small> は鏡池 <small>かがみいけ</small> と言われ、古くは「いけのみたま」とも呼ばれ、平安時代から銅鏡が奉納されている。	鶴岡市
11	<small>がつさん</small> 月山	国天然記念物	高く秀麗な姿から太古の昔より信仰を集め、「祖霊が鎮まる山」として「過去の世を表す山」と言われる。弥陀ヶ原 <small>みだがはら</small> 湿原、東普陀落、仏生池 <small>ぶつしょういけ</small> など信仰にまつわる地名が残る。	鶴岡市 西川町 庄内町
12	<small>がつさんじんじや</small> 月山神社	未指定	月山は「祖霊が鎮まる山」として信仰され、神社に祀られる祭神は月読命 <small>つくとよみのみこと</small> である。古 <small>いにしえ</small> は本地仏として阿弥陀如来が祀られ、いずれも死後の世界を司る神仏である。7月1日の山開きから9月15日の閉山までの短期間しか参拝することができない。8月13日に例祭 <small>さいとうさい</small> (柴燈祭)が行われる。月の使者とも言われる兎に因み、卯年を御縁年とする。	庄内町

13	ゆどのさん 湯殿山	未指定	全てのものを産み出す山の神（大山祇命）が祭神として祀られ、「未来の世を表す山」と言われる。野性味あふれる自然が広がる湯殿山は、山伏が修行をする「行場」でもある。出羽三山参拝記念に建てられた「湯殿山碑」は東日本各地に数多く分布し、信仰域の広さを示す。	鶴岡市
14	ろくじゅうりごえかいどう 六十里越街道	未指定	出羽三山への参拝者が利用した街道。山形県の内陸部と海岸部を最短距離で結ぶ約 100 kmの道。江戸中期から後期には湯殿山への参詣道として栄えた。地元住民による復元が進み、石畳や茶屋跡の石垣などが発掘されている。また、かつて参拝者を迎えた旅籠屋があった田麦俣地区や、山伏が滝行を行ったと言う「セツ滝」が街道沿いにある。	鶴岡市 西川町
15	旧遠藤家住宅	県有形 (建造物)	六十里越街道の途中、田麦俣地区には出羽三山への参拝者を迎えた旅籠屋があった。旧遠藤家住宅は、雪深いこの地域の生活を今に伝える茅葺屋根の寄棟兜造の多層民家である。	鶴岡市
16	きよかわせきしよあと 清川関所跡	未指定	最上川舟運を利用した参拝者を迎えた関所であり、清川で舟を下り五所の王子（現御諸皇子神社）を拝して、鉢子集落から羽黒古道を経て、羽黒山に向かった。	庄内町

17	はぐるこどう 羽黒古道	未指定	蜂子皇子が羽黒山に登った場所と言われる鉢子集落の登山口から羽黒山に至る古道。出羽三山を開山した蜂子皇子ゆかりの遺跡やマンサクなどの山野草が見られる。	庄内町
18	はっほうななくち 八方七口	未指定	出羽三山周辺に点在する登拝口。寺や賄い小屋が建ち、宿坊街が形成されて参拝者を迎えた。	鶴岡市 西川町
19	月山神社 出羽神社 湯殿山神社 撰社 月山出羽湯殿山三神社 社殿 (旧日月寺本堂)	国重文 (建造物)	登拝口の一つ「岩根沢口」にある、月山・羽黒山・湯殿山の三神を祀る神社。嘉慶元年(1387)後小松天皇の時代に創建。その後三度の火災に遭い、天保12年(1841)に再建。桁行約65m、梁間約22mの長大な規模の建物。宿場集落としての面影も残されている。旅人はここで祈りを捧げ三山を目指す。	西川町
20	ほんどうじあと 本道寺跡	未指定	登拝口の一つ「本道寺口」にある別当寺(神社の祭司や管理を行う寺)。二十数軒の宿坊があった門前集落も「本道寺」と言い、庶民信仰の証である代参塔群が見られるなど出羽三山への参詣者でにぎわった当時の面影を残す。	西川町
21	だいさんとうぐん 本道寺代参塔群	町史跡	参拝が困難な信者が多額の寄進を行って住職に代参を依頼する信仰形態があったことを伝えるもの。その際、寄進額の一部を使って建立されたものが代参塔。	西川町

22	だいにちじあと 大日寺跡	町史跡	登拝口の一つ「大井沢口」の別当寺。西川町大井沢集落にその跡を残す。「大井沢口」の中興の祖である道智上人が大日寺に至る道智道と呼ばれる行者道を整備したことから、関東、福島、置賜方面からの参拝者でにぎわった。	西川町
23	だいさんとうぐん 大日寺代参塔群	町史跡	参拝が困難な信者が多額の寄進を行って住職に代参を依頼する信仰形態があったことを伝えるもの。その際、寄進額の一部を使って建立されたものが代参塔。	西川町
24	だいにちぼうにおうもん 大日坊仁王門	県有形 (建造物)	登拝口の一つ「大網口」の別当寺である大日坊の仁王門。仁王門をくぐり大日坊にお参りしてから山に登る。大日坊は湯殿山行者の修行道場として繁栄した寺で、即身仏を安置している。	鶴岡市
25	大日坊の皇壇スギ	県天然記念物	登拝口の一つ「大網口」の大日坊の旧境内にそびえたつ杉の巨木。根周り約8m、幹囲約6m、高さ27m、推定樹齢1800年。湯殿山へ向かう参詣道「六十里越街道」の要所にあり、修験者はこの杉に手をあわせ、修行の成就を祈る。	鶴岡市
26	ちゅうれんじ 注連寺	市天然記念物	登拝口の一つ「七五三掛口」にある注連寺の境内に咲く樹齢約200年のカスミザクラ。湯殿山の御縁年の丑年にはひとりでに注連が掛かるという伝説がある。弘法大師がこの樹の下で修行したと言われる。花卉の色が咲き始めは白く、散り際になると深い桃色へと変化する神秘的な魅力があり、参拝者の目を楽しませる。注連寺は湯殿山行者の修行道場として繁栄した寺で、即身仏を安置している。	鶴岡市

27	手向の宿坊街 とうげ しゅくぼうがい	鶴岡市歴史的 風致維持向上 計画重点区域	出羽三山への参詣者のための宿坊街の一つ。かつては宿坊数 336 坊を誇った。明治時代の神仏分離政策以降に坊数は減少して現在は 30 数件となったが、昔と変わらぬ活動を続けており、往年の宿坊街の面影をよく残している。山伏が経営する宿坊では、参拝者に参拝の手順を教え、登拝の先達役となる。三山独特の精進料理を継承し提供している。	鶴岡市
28	羽黒山正善院黄金堂 しょうぜんいんこがねどう	国重文 (建造物)	羽黒山の門前町、手向地区にある山伏の修行の場。古くは羽黒山頂の大金堂（現在の三神合祭殿）に対し、麓の「小金堂」と呼ばれた。また、明治時代の神仏分離政策の際、大金堂の三尊像（聖観世音菩薩、阿弥陀如来、大日如来）は、正善院於竹大日堂に遷座された。於竹大日如来は、江戸と出羽国を行き来する山伏による出開帳などで広められ、江戸庶民を出羽三山に呼び込んだ。	鶴岡市
29	松例祭の大松明行事 しょうれいさい おおたいまつぎょうじ	国無形民俗	松例祭は、地元の手向地区から選ばれた「松聖」とよばれる2名の長老山伏が主役の祭りで、「冬の峰」100 日間の修行で得た験力が試される祭りでもある。「大松明行事」は、開祖蜂子皇子が悪鬼を退治して疫病を鎮めたという故事に由来する。悪鬼に見立てた大松明に放たれた火が柱のように立ち上り、宵闇を染めていく様は幻想的でもあり、こうして災厄は焼きつくされ山頂は新しい年を迎える。	鶴岡市

30	羽黒山の峰入り ^{みねいり}	未指定	<p>「峰入り」は、開祖^{はちこのおうじ}蜂子皇子の修行をたどる羽黒山伏の修行。「夏の峰」は三山を駆ける夏山登拝を意味する。「秋の峰」は、山伏養成を目的として約1週間の山籠りを中心とする修行を行うなど、日本で唯一本来の山伏修行の形を伝えると言われる。「冬の峰」は100日間の参籠修行で、100日目の満願の日にあたる大晦日に羽黒山山頂で毎年行われる「松例祭」では、修行で得た^{げんりき}験力を披露する。羽黒山では今もなお、多くの修験者が修行し、出羽三山神社「秋の峰」には約150名が、1993年、開山1400年を機に女性を対象として創設された「^{みこ}神子修行道場」という山伏修行には毎年60～70名が参加している。</p>	鶴岡市
31	出羽三山の精進料理 ^{しょうじんりょうり}	未指定	<p>出羽三山の精進料理は、月山などの奥深い山で生活するために「生きるための食」として山伏が創作し継承されている。必要な食材を山の恵みとして採集し、食材の乏しい厳しい冬を乗り越えるために、あく抜きや水煮といった時間と手間のかかる調理方法や保存技術が編み出された。出羽三山に参拝する者は、精進料理をいただいて身を清め、山へ向かう準備を整える。</p>	鶴岡市

構成文化財の写真一覧

①羽黒山（神橋と祓川）



④羽黒山の石段（2，446段）



②羽黒山蜂子神社



⑤羽黒山のスギ並木



③羽黒山の随神門



⑥羽黒山の爺スギ



⑦ 国宝 羽黒山五重塔



⑩ 羽黒山三神合祭殿



⑧ 羽黒山南谷



⑪ 月山



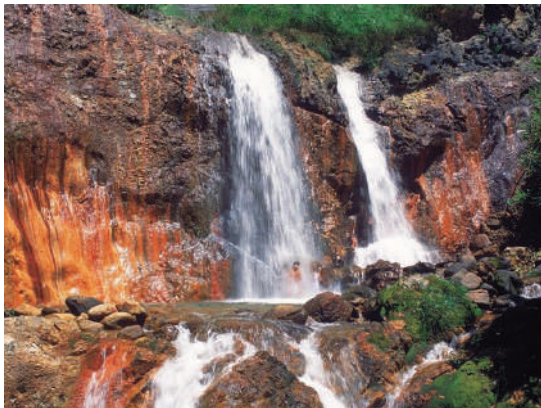
⑨ 羽黒山 齋館



⑫ 月山神社



⑬湯殿山（滝行を行う御滝）



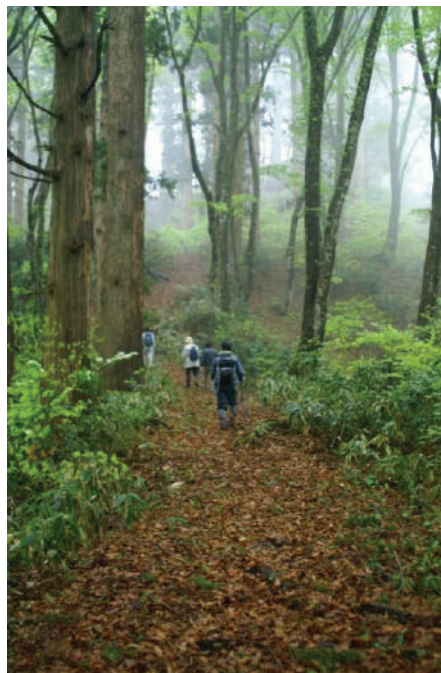
⑯清川関所跡



⑭六十里越街道



⑰羽黒古道



⑮旧遠藤家住宅



⑱八方七口

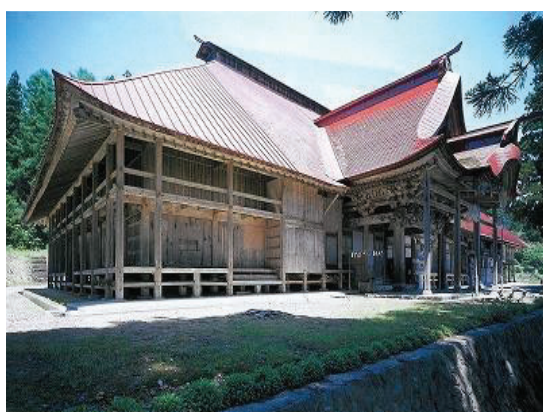
(江戸時代、八方七口の一つ本道寺口の様子)



㉑本道寺代参塔群



⑲月山神社出羽神社湯殿山神社撰社月山出羽湯殿山三神社社殿 (旧日月寺本堂)



㉒大日寺跡



㉔本道寺跡



㉓大日寺代参塔群



②④大日坊仁王門



②⑦手向の宿坊街



②⑤大日坊の皇壇スギ



②⑧羽黒山正善院黄金堂



②⑥注連寺 七五三掛桜



②⑨松例祭の大松明行事



⑩ 羽黒山の峰入り



⑪ 出羽三山の精進料理



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
20	自然と信仰が息づく「生まれかわりの旅」 ～樹齢 300 年を超える杉並木につつまれた 2,446 段の石段から始まる 出羽三山～

(1) 将来像 (ビジョン)

出羽三山の雄大な自然と日本を代表する精神文化を未来へつなぐ
～次世代が誇れる・憧れる持続可能な出羽三山地域を実現～

日本遺産に認定された出羽三山地域は、出羽三山の雄大な自然と今に息づく精神文化を最大の魅力とする地域であり、羽黒山を中心に、自然信仰に仏教や密教が混じり生まれた日本独特の山岳信仰、これに由来する文化や生活様式が今も地域の人々の手で受け継がれている。

また、六十里越街道や羽黒古道、清川関所跡等の未指定の構成文化財は、日本遺産認定をきっかけにストーリーの中で魅力が掘り起こされ、現在、構成文化財保存・活用団体と市町の官民一体、連携した地域活動が行われている。

一方で、少子高齢化や人口減少による出羽三山文化を継承する担い手の減少や、ガイドの高齢化、ストーリーを構成する歴史的建造物や景観・自然環境等の地域資源を守るための資金確保等の課題が存在している。

こうした状況等を踏まえ、次に掲げる来訪者・地域住民・民間事業者それぞれの目指す姿の実現に向けて取組みを進めることにより、先人が連綿と紡いできたこの出羽三山文化の未来への継承、発展、創造につなげ、次世代が誇れる・憧れる持続可能な出羽三山地域の実現を目指すものである。

【目指す姿1】〔来訪者視点〕

○精神文化の体験を通して新しい気づきや発見が生まれ、何回でも訪れたい地域
・出羽三山地域への訪問者が、精神文化体験や、地域に暮らす人々との交流等を通じて、「自然を尊敬し、感謝する心」に触れ、「心の安らぎや癒し」、「新しい気づきや発見」を感じ、何回でも訪れたい地域となっている。

【目指す姿2】〔地域住民視点〕

○自然を尊敬し感謝する心と、郷土への誇りと愛着が生まれる地域
・地域住民が、出羽三山の雄大な自然や歴史・文化に誇りと愛着を感じ、自ら語り、活かした地域活動が活発に行われている。また、その姿が来訪者を惹きつけている。地域住民と来訪者との交流機会と地域活性化活動の達成感が生み出されている。

【目指す姿3】〔民間事業者視点〕

○高い経済波及効果と地元への還元を生み出す地域
・出羽三山「生まれかわりの旅」の地域資源（ヒト、モノ、コト）に出会う旅行商品が造成され、観光客の増加や、地域経済の活性化などにつながり、地域の民間事業者が持続的に収益を得ることができている。

【目指す姿4】〔共通の視点〕

○ひとりではなくみんなで守り伝える地域
・来訪者や地域住民、民間事業者等が構成文化財の意義やその保存の重要性を共通して「出羽三山の精神文化を次世代に伝える」という認識を持ち、ステークホルダーとなって地域活性化活動が行われている。

【地域の長期的構想（総合計画等）への位置づけ】

・第4次山形県総合発展計画、山形県文化財保存活用大綱、第2期山形県文化推進基本計画、第3次おもてなし山形県観光計画、第7次山形県教育振興計画の長期構想において、日本遺産を観光振興、文化振興及び教育振興に活用することで、その価値を再認識し、地域への愛着を深め、地域における持続的な保存と活用の取組みにつなげていく施策を推進することとしている。

・構成団体各市町の総合計画や観光振興計画等の長期構想においても、日本遺産や日本遺産を構成する文化財等を活用し、観光振興、地域振興及び教育振興を図るとともに、文化財の持続的な保存と活用につなげる施策を展開することとしている。

<構成市町の長期構想>

- 鶴岡市：第2次鶴岡市総合計画後期基本計画、鶴岡市歴史的風致維持向上計画（第2期）
- 西川町：第7次西川町総合計画、西川町観光ビジョン
- 庄内町：第2次庄内町総合計画後期基本計画、第4次庄内町観光振興計画

(2) 地域活性化計画における目標

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：構成文化財及び日本遺産ガイダンス関連施設の来訪者数

年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	774千人	885千人	(未確定)			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	910千人	940千人	960千人	990千人	1,020千人	1,040千人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度実績値（885千人）を基準に、本県の観光計画の参考管理指標である「観光客数」に係る目標値の伸び率（R5年度基準に6年間で21.6%）を参考として毎年3%の上昇を目指す。 ・構成市町の観光者数調査により、構成文化財及び日本遺産ガイダンス関連施設（※）の来訪者数を把握する。 ※日本遺産ブース設置施設（いでは文化記念館）、パネル設置施設（道の駅月山文化創造館、西川町歴史文化資料館） 					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②-A：地域住民が日本遺産を誇りに思う割合

年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	94%	92%	97%			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030

数値	90%	90%	90%	90%	90%	90%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ・誇りを「とても感じる」又は「感じる」と回答した方の割合を、直近（2022年度～2024年度）の実績値9割以上と高い水準を維持することを目指す。 ・山形県県民文化芸術振興課の日本遺産アンケート調査により、把握する。 					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③-A：構成文化財等の入館料等及び地域のガイド利用料収入						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	15,180千円	11,850千円	(未確定)			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	12,400千円	13,000千円	13,600千円	14,400千円	15,200千円	16,100千円
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ・2027年度（令和8年度）までの3か年は、ガイド団体の体制強化に係る取組み途上であることを考慮し、2022年度～2023年度実績値の平均値（13,520千円）の水準以上まで段階的に引き上げていくことを目指すし、それ以降3年間は、2027年度の目標値（13,600千円）を基準に本県の観光計画の数値目標項目である「観光消費額（日本人）」に係る目標値の伸び率（R5年度基準に6年間で37.8%）を参考として毎年6%の上昇を目指す。 ・構成団体の実態調査により、構成文化財等の入館料、体験料等（※）及びガイドの利用料収入を把握する。 <p>※いでは文化記念館展示室入館料、多層民家「旧遠藤家住宅」入場料、石段詣初穂料、山伏修行体験塾体験料、羽黒山五重塔ライトアップ協力金</p>					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④-A：日本遺産の構成文化財が活用可能な状態にある割合						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	100%	100%	100%			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、すべての構成文化財が活用可能な状態を維持していく。 <p>なお、令和2年度豪雨により大きく被災した六十里越街道（西川町側）の河川部の一部について、現在も通行止めとなってい</p>					

	<p>る箇所が残るが、被災個所を所管する国、県に対して、早期の復旧に向け働きかけていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成市町の実態調査により、構成文化財の状態を把握する。
--	---

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：地域の観光入込数						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	5,575 千人	5,937 千人	(未確定)			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	6,120 千人	6,290 千人	6,470 千人	6,650 千人	6,830 千人	7,010 千人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法			<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度実績値（5,937千人）を基準に、本県の観光計画の参考管理指標である「観光客数」に係る目標値の伸び率（R5年度基準に6年間で21.6%）を参考として毎年3%の上昇を目指す。 ・構成市町の観光者数調査により、構成市町の観光入込数を把握する。 			

(3) 地域活性化のための取組の概要

【地域の現状】

平成 28 年度に日本遺産に認定された出羽三山地域は、出羽三山の雄大な自然と今に息づく精神文化を最大の魅力とする地域であり、また、山岳信仰、これに由来する文化や生活様式が今も地域の人々の手で受け継がれている。

認定以降これまで、認定ストーリーや構成文化財を活用し、構成団体のほか、旅行会社、交通事業者、宿坊・宿泊施設等の民間事業者がそれぞれの強みを活かして観光振興や地域づくり、多様な交流の拡大につなげる取組みを展開している。

また、構成文化財の保存、継承活動については、六十里越街道などの維持・管理を行うアルゴディア研究会が環境省の「自然歩道関係功労者表彰」を受賞するまでに至っているほか、新たに「羽黒山スギ並木保全とまちづくり協議会」が発足するなど地元住民を主体とした保全活動の取組みが定着、活発化してきている。

その一方で、地域の構成文化財を活用した観光振興、地域振興の一翼を担う地域のガイド団体では、ガイドの高齢化とコロナ禍による活動の停滞の影響などから一部の団体では担い手の減少傾向が続いており、今後の観光需要を踏まえ、担い手確保、体制強化の取組みが急務となっている。

地域をめぐる観光の状況は、コロナ禍から順調な回復傾向となっていたものの、出羽三山地域をはじめ県内全域が激甚災害に指定された「令和 6 年梅雨前線による災害」の影響により、回復傾向が著しく後退した。このような状況の中、同年 9 月に出羽三山地域を含む山形エリアが観光庁の「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業」のモデル観光地に選出されたことをはじめ、10月に鶴岡市手向地区が観光に関する国際認証団体グリーン・デスティネーションズから「世界の持続可能な観光地トップ 100選」、11月には構成団体の西川町が山形県内初、国内では7番目となる国連世界観光機関プロジェクト「ベストツーリズムビレッジ」に選出されるなど地域の国際的な認知度、価値が高まっており、インバウンド誘客拡大の好機を活かした戦略的な事業展開が望まれている。

【これまでの取組みの成果】

現計画（令和 4 年度～6 年度）では、「観光振興」、「普及啓発」、「基盤強化」の 3 つの取組みの柱を掲げ、取組みを展開してきた。各柱における成果は次のとおり。

《観光振興》

- ① 構成団体、民間事業者による認定ストーリーを活用した体験プログラムの企画・実施、関連商品の造成等の取組みによる体験型コンテンツの充実
- ② 商談会への出展やアドベンチャーツーリズム事業等の実施を通じたプロモーション、旅行会社やメディア等を招請したモニターツアーの開催等構成団体の継続したプロモーションによるインバウンドの拡大
- ③ ガイドコースの磨き上げやガイドマニュアル作成などによるガイド団体の受入体制整備
- ④ 月山ライナーやレンタカーを使った交通インフラの拡大による二次交通の充実

《普及啓発》

- ① 親子体験事業「YAMAGATA BATONS」や小学校における副読本を活用した課外学習活動、住民を対象とした勉強会の開催などによる多世代への普及啓発の促進
- ② いでは文化記念館への日本遺産情報発信機能の充実による普及啓発、交流促進
- ③ 教育旅行向けデジタルガイドブックの活用及び大手旅行会社への商談会、鶴岡市と連携したプロモーションなどによる教育旅行の誘致促進

《基盤強化》

- ① 地域内外の若者とのガイドモニター体験会などによる地域や地域プレーヤーとの交流機会の拡大

- ② 地域のガイド団体やタクシードライバーなどを対象とした研修事業等の実施による来訪者の利便性と満足度の向上
- ③ 行政、地元団体等による「六十里越街道」の環境整備活動、アクセスが課題とされる「湯殿山」、「月山」への二次交通支援の取組みなどによる受入環境の整備

【これまでの取組み、状況の変化等から見えてきた課題】

- ① 国内外から選ばれるための観光・周遊コンテンツの充実や様々な団体との連携、マーケティング結果等を活かした戦略的な事業展開・プロモーション
- ② インバウンド需要の拡大を踏まえた、二次交通、多言語対応ガイドの充実など受入体制のさらなる整備
- ③ 構成文化財保存・活用団体の担い手育成・確保に向けた取組みの充実
- ④ 構成文化財、伝統文化への理解促進やガイダンス施設の活用、構成文化財の魅力向上に向けた取組み
- ⑤ 構成文化財保存・活用団体、ガイド団体等の「稼ぐ力」の向上、収益化の取組み
- ⑥ 観光・周遊コンテンツの充実などによる誘客促進と更なる収益化

以上の課題等を踏まえ、ビジョンを実現するため、以下の3つの取組みの柱立てと基本的な取組みを行う。

【柱1】出羽三山精神文化ツーリズムの国内外への展開による交流人口・関係人口の拡大(課題①②に対応)

地域の国際的な認知、価値が高まっていることを好機と捉え、国内外から選ばれる出羽三山地域にするために、魅力の掘り下げや国内外への打ち出し方などの調査研究を進めながら戦略的な情報発信・効果的なプロモーションを展開していく。また、インバウンド需要の拡大を踏まえ、観光・周遊コンテンツの充実を図るとともに、二次交通、ガイド機能の充実など受入体制の整備を促進し、交流人口・関係人口の拡大につなげる。

<基本的取組み>

- ① 民間団体や地域プレーヤーと連携した精神文化観光戦略の展開(1-A、2-A)
- ② 出羽三山等の世界的価値創造による戦略的なプロモーション(2-A)
- ③ 多言語解説などのガイド機能の充実や二次交通等の受入環境整備(3-B、4-B)
- ④ 出羽三山地域全体の周遊プログラムの造成・磨き上げ(5-A)
- ⑤ インバウンド誘客促進に向けた事業展開、他地域の観光地等と連携した広域周遊プロモーション(5-B)

【柱2】出羽三山文化の保存・継承に向けた担い手の育成・確保(課題③④に対応)

先人が連綿と紡いできた精神文化や六十里越街道をはじめとした構成文化財などの出羽三山文化を次世代に継承していくために、構成文化財保存・活用団体の組織強化に向けた取組みを展開する。また、将来的な担い手育成・確保に向けて、地域のガイド団体などの地域プレーヤーと高校生、大学生等の若者との交流機会の創出や、多世代にわたり育み、郷土を誇る心を醸成するため、体験機会の充実を図る。

<基本的取組み>

- ① 若者と地域プレーヤーとの交流等の取組みによる次世代の担い手の育成・確保(3-A)
- ② 構成文化財保存・活用団体の組織強化(3-B、C)
- ③ 構成文化財六十里越街道の保存・整備(4-A)
- ④ 親子体験学習や地域住民への勉強会等による出羽三山文化の継承(6-A)
- ⑤ 拠点施設、地域体験イベントを通じた普及啓発、教育旅行への活用促進(6-B、C、D)

【柱3】関係団体等の「稼ぐ力」の向上による地域活性化(課題⑤⑥に対応)

ガイド団体等の体制強化、受入体制の整備による収益の増加や、国内外から選ばれるための観光・周遊コンテンツの充実、戦略的なプロモーションなどによる誘客促進を図るこ

とで更なる収益化につなげていく。

<基本的取組み>

- ① 外部資金獲得による協議会組織の運営強化(1-B)
- ② 収益を生み出す仕組みづくり等によるガイド団体体制強化(3-B)
- ③ 構成文化財保存・活用団体の組織強化(再掲)(3-C)
- ④ 体験プログラムや魅力ある旅行商品造成等による収益化の促進(5-A、B)

(4) 実施体制

構成団体：

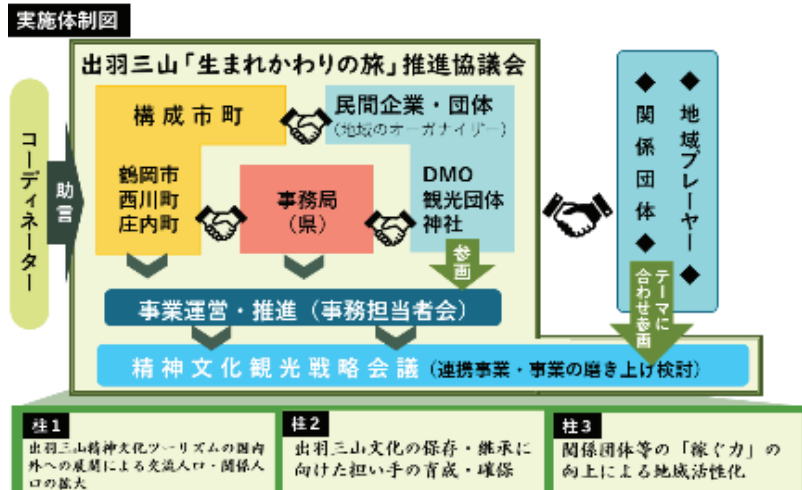
- 【山形県】 観光文化スポーツ部県民文化芸術振興課（事務局：日本遺産担当）、観光交流拡大課（広域的観光振興）、国際観光推進室（インバウンド観光振興）
教育庁生涯教育・学習振興課（生涯学習振興、学校教育連携）
村山総合支庁観光振興室（広域的観光振興）、西村山連携支援室（広域的地域振興）
庄内総合支庁観光振興室(広域的観光振興)
- 【鶴岡市】 商工観光部観光物産課（観光振興）
羽黒庁舎産業建設課（観光振興、地域振興連携）
朝日庁舎産業建設課（観光振興、地域振興連携）
教育委員会社会教育課（文化財保護、生涯学習振興、学校教育連携）
- 【西川町】 観光課（観光振興、地域振興連携）
教育委員会まなぶ課（文化財保護、生涯学習振興、学校教育連携）
- 【庄内町】 商工観光課（観光振興、地域振興連携）
立川総合支所立川地域振興係（観光振興、地域振興）
教育委員会社会教育課（文化財保護、生涯学習振興、学校教育連携）
- 【民間企業・団体】
山形県観光物産協会(広域的観光振興)【地域連携DMO】
DEGAM鶴岡ツーリズムビューロー（観光分野における地域の主要オーガナイザー）【地域DMO】
羽黒町観光協会（いでは文化記念館運営、地域の観光振興実働者、歴史的・文化的な知見からの助言指導）
あさひむら観光協会（月山あさひ博物村文化創造館運営、地域の観光振興実働者）
月山朝日観光協会（地域の観光振興実働者）
庄内町観光協会（地域の観光振興実働者）
月山神社出羽神社湯殿山神社(文化財所有者、文化財保護・文化観光推進の主要パートナー、歴史的・文化的な知見からの助言指導)
致道博物館（文化財所有者、文化財保護・文化観光推進の主要パートナー、歴史的・文化的な知見からの助言指導）
東北観光推進機構（広域的観光振興）【広域DMO】
庄内観光コンベンション協会（広域的観光振興）

【連携する関係団体・地域プレイヤー（主な想定）】

項目	関係団体・地域プレイヤー	内容
事業推進	(株)山形アドビューロ	助言・コーディネート
柱1 出羽三山精神文化ツーリズムの	構成文化財保存・活用団体、ガイド団体、旅行会社、交通事業者、宿坊・宿泊施設、道の駅・産直等立寄施設、文化施設、大学機関、報道機関、地	旅行商品企画・販売、商品開発・販売、体験

国内外への展開による交流人口・関係人口の拡大	域おこし協力隊、環境省羽黒自然保護官事務所、地域協議会（国宝羽黒山五重塔ライトアップ実行委員会、あさひむら特産品開発協議会等）、他の日本遺産協議会	コンテンツ提供・磨き上げ、情報発信
柱2 出羽三山文化の保存・継承に向けた担い手の育成・確保	小・中・高等学校・大学機関、宿坊・宿泊施設、文化施設、構成文化財保存・活用団体、ガイド団体、地域おこし協力隊企業、環境省羽黒自然保護官事務所、月山ビジターセンター、地域協議会（山形県教育旅行誘致協議会等）、	体験プログラムの企画・提供、人材育成、情報発信、若者参画
柱3 関係団体等の「稼ぐ力」の向上による地域活性化	構成文化財保存・活用団体、ガイド団体、旅行会社、交通事業者、宿坊・宿泊施設、道の駅・産直等立寄施設、地域協議会（国宝羽黒山五重塔ライトアップ実行委員会、あさひむら特産品開発協議会等）	旅行商品企画・販売、商品開発・販売、人材育成、収益環境整備

※具体的な連携先及び内容は、(7)地域活性化のために行う事業に記載



- ・協議会事業は、事務局メンバーに、DMOや観光協会等の民間事業者を加えた体制により企画運営・実施（事務担当者会による企画運営）
- ・精神文化観光戦略会議は、取組の柱1～3の実現に向けて、テーマ別に関係団体や地域プレイヤーを交え開催し、連携した取組みや事業等の磨き上げ等を検討、実施
- ・観光振興はDMOや民間事業者が主体となり事業を実施する体制を継続

[人材育成・確保の方針]

1. 小中学生への対応

地域内の中長期的な人材確保のため、小中学生に対しては、学校での副読本等の活用や文化施設での学習活動を継続的に実施するとともに、幼少期から体験を通じた学びの機会を創出していく。

2. 高校生・大学生、企業等への対応

県内の高校や、大学機関との連携を図り、若者視点での出羽三山文化の魅力発信やフィールドワーク等を実施することにより、高校生や大学生等の若者参画を促す。また、若手社員の研修におけるストーリー体験受入等をきっかけとした企業とのパートナー関係の構築につなげていく。

3. 出羽三山文化に興味を持った地域外の人への対応

出羽三山文化に興味を持った人が、地域との交流を深め、将来的に出羽三山文化の担い手として移住・定住につながる事も見据え、地域プレイヤーやガイド団体等と連携した交流人口・関係人口の拡大を図る。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

○協議会運営体制

本協議会は、行政関係は観光関係課、地域振興関係課、文化財関係課により構成し、また、DMO・観光団体・神社等の民間企業・団体を中心に日本遺産の取組みへの協力が得られており、事業者の自主的で継続的な取組みも実施されていることから、引き続き、観光関係者や民間事業者の参画体制を継続していく。加えて、精神文化観光戦略会議において、取組の柱1～3の実現に向けて、テーマ別に関係団体や地域プレイヤーを交え、取組みや事業の磨き上げ等を検討するとともに、実施にあたって連携体制を強化する。

○協議会の運営費等の財源確保の取組み

本協議会は、現在、運営と事業の財源は県及び構成市町の負担金で賄っているが、継続的、効果的な活動を行うための財源等の確保は重要であることから、構成団体の羽黒町観光協会などの民間事業者の収益化のノウハウなどを参考としながら、協議会独自のオリジナルデザインやグッズの開発、販売など収益化に向けた事業を検討、実施し、協議会運営費の確保につなげていく。また、構成団体における事業収入の一部還元や金融機関等によるファンド等の獲得を検討していく。

○観光関係団体等の更なる収益化の取組み

観光振興は、構成団体であるDMOや観光協会のほか、旅行会社、交通事業者、宿坊・宿泊施設等の民間事業者がそれぞれの強みを活かしてストーリーを体験できるコンテンツ造成の企画、実施や、マーケティング、そのデータを基にした観光戦略立案を行っている。今後のインバウンド需要の拡大を踏まえ、国内外から選ばれるための観光・周遊コンテンツの充実や戦略的なプロモーション、観光客の高付加価値化傾向への対応などを行うことにより、誘客促進を図り更なる収益化につなげていく。

○「稼ぐ力」の向上によるガイド団体の体制強化

地域のガイド団体では、ガイドの高齢化とコロナ禍による活動の停滞の影響により一部の団体では、担い手の減少傾向が続いており、担い手の育成・確保、体制強化の取組みが急務となっている。体制強化を図るためには、ガイド利用者増による収益の増加が重要な要素となることから、ガイドの利用拡大に向けた効果的な情報発信やガイド利用者の満足度向上によるリピーターの獲得に向けた取組みを行う。また、多言語解説などガイド機能の充実・整備することで、利用者拡大とガイド料の適正化など「稼ぐ力」の向上を図り、ガイド人材の確保、体制強化につなげていく。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

前述した3つの取組みの柱に基づき、以下の取組みを進めることにより、構成文化財の保存と活用の好循環を目指す。

○出羽三山地域全体の周遊プログラム・体験コンテンツへの活用の促進

出羽三山地域全体の周遊プログラムの造成・磨き上げを行うことにより、出羽三山への誘客拡大、ファン・リピーターの獲得につなげ、観光事業者の収益増加だけでなく、周辺の事業者にも波及効果が生まれ、地域経済が活性化し、構成文化財の保存のための資金獲得、構成文化財の保存への還元につなげる。

○出羽三山等の世界的価値創造による戦略的なプロモーション

国内外から選ばれる出羽三山地域にするために、世界的価値・魅力の掘り下げを行うことにより、新たな価値や魅力を見出し、構成文化財の効果的な活用のほか、構成文化財の保存の動きにつなげる。

○若者と地域プレーヤーとの交流等の取組みによる次世代の担い手確保

出羽三山地域のガイド団体などの地域プレーヤーと若者との交流機会を通して、団体やその活動への理解促進を図り、将来的な担い手確保、構成文化財保存・活用団体の体制強化につなげる。

○親子体験学習や地域住民への勉強会等による出羽三山文化の継承

多世代への普及啓発の取組みを通して、ストーリーの背景にある自然を尊敬し感謝する心と、郷土への誇りと愛着を醸成し、精神文化や六十里越街道をはじめとした構成文化財などの出羽三山文化の次世代への継承につなげる。

○構成文化財六十里越街道の保存・整備

豊かな自然や歴史、文化などが混在する貴重な観光資源と位置付けられている六十里越街道について、六十里越街道保存推進委員会、アルゴディア研究会などの民間団体と協力して官民一体で保存・整備を進め、「自然、文化体験、アクティビティ」の要素を持つアドベンチャートラベル（AT）として、受入れ拡大につなげる。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」推進協議会の組織運営強化		
概要	【柱1～3共通】日本遺産事業推進母体となる出羽三山「生まれかわりの旅」推進協議会の組織運営の強化を図るとともに、認定ストーリーが誇る精神文化体験の戦略的な展開を図るためのワーキンググループの機能強化を図り、協議会事業を展開する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	協議会事業の企画運営を行う組織整備、運営	事務局会メンバー（県及び構成市町の文化財・観光担当課）にDMOや観光協会等の民間事業者を加えた事務担当者会を設置し、協議会事業の企画運営等を行う。	協議会
②	精神文化観光戦略会議の機能強化	出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーが誇る精神文化体験の地域全体での戦略的な展開につなげるため、協議会にワーキンググループとして、精神文化観光戦略会議を設置する。本会議では、取組の柱1～3を実現に向けて、テーマ別に関係団体や地域プレーヤーを交えた開催とし、連携した取組みや事業等の磨き上げにつなげる。	協議会
③	他の日本遺産地域との連携強化	県内の他の3つの日本遺産地域と連携し、日本遺産の認知度アンケートの実施やPR等を連携して実施する。 また、引き続き、修験をテーマとして扱う他の日本遺産地域と連携し、日本遺産サミットなどでの共同ブース出展による情報発信等などの取組みを通して、ストーリーの相互比較による出羽三山「生まれかわりの旅」ストーリーの更なる価値顕在化につなげる。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	組織体制への行政組織以外の参加数		10 団体
2023			10 団体
2024			10 団体
2025	組織体制への行政組織以外の参加数 (事務担当者会、精神文化観光戦略会議等)		12 団体
2026	組織体制への行政組織以外の参加数 (事務担当者会、精神文化観光戦略会議等)		12 団体
2027	組織体制への行政組織以外の参加数 (事務担当者会、精神文化観光戦略会議等)		14 団体
2028	組織体制への行政組織以外の参加数 (事務担当者会、精神文化観光戦略会議等)		14 団体
2029	組織体制への行政組織以外の参加数 (事務担当者会、精神文化観光戦略会議等)		16 団体
2030	組織体制への行政組織以外の参加数 (事務担当者会、精神文化観光戦略会議等)		16 団体
事業費	2025年度：200千円 2026年度：200千円 2027年度：300千円		

継続に向けた事業設計	協議会事業の企画運営について、行政組織とDMOや観光協会等の民間事業者一体となった体制を構築するとともに、観光事業についてはDMOや民間事業者が中心となった実施体制を継続する。また、②の取組みに関係団体や地域プレーヤーを巻き込んだ体制を構築する。
事業費	2028年度：300千円 2029年度：300千円 2030年度：300千円
継続に向けた事業設計	②の取組みに関係団体や地域プレーヤーを巻き込むなど体制を強化し、出羽三山地域全体の更なる活性化につなげ、中長期的に日本遺産出羽三山地域全体として自走・自立を促す。

(事業番号1-B)

事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」活用による外部資金獲得事業		
概要	【柱3-①関連】出羽三山文化を応援する資金確保の仕組みづくりのため、クラウドファンディングやふるさと納税、寄付金など外部資金を積極的に獲得し、構成文化財の保存・活用の好循環創出に向けた基盤強化を図るとともに、協議会における継続、効果的な活動を行うための収益化に向けた事業を検討、実施し、協議会運営費の確保につなげていく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	鶴岡市ふるさと納税事業	鶴岡市が有する3つの日本遺産、山(出羽三山)、里(サムライシルク)、海(北前船寄港地)にちなんでふるさと納税事業の周知を強化するとともに、返礼品として日本遺産に関連する体験プログラムの提供等による寄付の拡大を図り、日本遺産関連の文化財の継続的な保存と保全につなげる。	鶴岡市
②	協議会等による外部資金獲得事業	クラウドファンディングやふるさと納税、寄附金など外部資金を積極的に獲得し、構成文化財の保存・活用や協議会の各種取組みに活用する。また、協議会における継続、効果的な活動を行うため、認定ストーリーを活用したオリジナルデザインやグッズの開発など収益化に向けた事業を検討、実施していくことにより、協議会運営費の確保につなげていく。	協議会 ・ 構成団体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産ふるさと納税等寄付件数		91件
2023			43件
2024			(集計中)
2025	日本遺産ふるさと納税等寄付件数		50件
2026	日本遺産ふるさと納税等寄付件数		50件
2027	日本遺産ふるさと納税等寄付件数		60件
2028	日本遺産ふるさと納税等寄付件数		60件
2029	日本遺産ふるさと納税等寄付件数		70件
2030	日本遺産ふるさと納税等寄付件数		70件
事業費	2025年度：0千円 2026年度：0千円 2027年度：200千円		
継続に向けた事業設計	鶴岡市が実施している日本遺産ふるさと納税の取組み事例を、他の構成町に横展開していくことで、地域全体で構成文化財の保存活用に向けた基盤強化につなげていく。		
事業費	2028年度：3,000千円 2029年度：200千円 2030年度：200千円		

継続に向けた事業設計	ふるさと納税以外にもクラウドファンディングや協賛金の獲得の検討を行うほか、文化庁の補助金活用を視野にいれながら、協議会において、収益化に向けた事業を検討、実施していくことにより、協議会運営費の確保、中長期的に協議会運営組織の自立・自走につなげていく。
------------	---

(7) - 2 戦略立案			
(事業番号2-A)			
事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」観光誘客戦略の立案・展開		
概要	【柱1-①関連】出羽三山神社が行う「石段詣」の参加者を対象としたICTを活用したアンケート調査を実施する。その結果を基に関係団体や地域プレーヤーを交え、来訪者ニーズに応じた精神文化体験コンテンツの磨き上げや商品化、戦略的な情報発信・効果的なプロモーション手法等の検討を行い、事業展開につなげる。また、出羽三山等の魅力の掘り下げや国内外への打ち出し方などについて、調査研究を行い、戦略的な情報発信・プロモーションにつなげる		
	取組名	取組内容	実施主体
①	PDCA サイクルを回す仕組みの整備	事務局会メンバー（県及び構成市町の文化財・観光担当課）にDMOや観光協会等の民間事業者を加えた事務担当者会を設置し、事務担当者会等での協議を基に事業を行うとともに、各構成団体の活動等の情報交換のほか、協議会事業の進捗状況、目標値の達成状況、事業効果、課題等を把握しながら、事業改善を行う。また、事務担当者会等での意見を総会や幹事会において協議し、協議会全体での意見をもとに事業をブラッシュアップしていく。	協議会
②	出羽三山神社「石段詣」と連携したマーケティング調査	出羽三山神社が行う「石段詣」参加者を対象とするICTを活用したアンケート調査を県立静岡大学との共同研究により実施し、来訪者属性、訪問数、構成文化財の認知度、来訪者のニーズ、満足度等を明らかにする。	DEGAM 鶴岡
③	精神文化観光戦略会議の開催	②の調査で得た来訪者のニーズなどを踏まえ、取組の柱1～3を実現に向けて、テーマ別に関係団体や地域プレーヤーを交え精神文化体験コンテンツの磨き上げや商品化、戦略的な情報発信・効果的なプロモーション手法等の検討を行い、具体的な事業展開につなげる。	協議会
④	出羽三山等の世界的価値創造事業	国内外から選ばれる「出羽三山」を目指し、出羽三山等の世界的価値・魅力の掘り下げや国内外への打ち出し方などについて、調査研究などを行い、戦略的な情報発信・プロモーションにつなげる。	山形県 ・ 協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	磨き上げられた事業数		0件
2023			2件
2024			2件
2025	磨き上げられた事業数		2件
2026	磨き上げられた事業数		2件

2027	磨き上げられた事業数	4件
2028	磨き上げられた事業数	4件
2029	磨き上げられた事業数	6件
2030	磨き上げられた事業数	6件
事業費	2025年度：700千円 2026年度：700千円 2027年度：700千円	
継続に向けた事業設計	調査事業の性質上、効果を得るために継続して行う必要があることから、協議会の負担金も活用しながら実施していく。また、構成自治体の観光統計調査や山形県が推進するデジタルマーケティング等の関連施策とも連動することで、費用対効果の高い事業とする。調査を活用した戦略立案と事業展開に結びつける精神文化観光戦略会議にも協議会の負担金を拠出し事業を展開する。	
事業費	2028年度：300千円 2029年度：300千円 2030年度：300千円	
継続に向けた事業設計	精神文化観光戦略会議などによって、立案・展開された事業などにより、誘客促進などの好循環を生み出し、地域全体の収益化につなげていく。	

(事業番号2-B)

事業名	構成自治体の長期構想への反映		
概要	【柱1～3共通】持続的・継続的な日本遺産事業を推進するため、日本遺産制度趣旨及び本地域活性化計画を踏まえ、各自治体で定める上位計画に位置づけを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	山形県文化推進基本計画	【現計画期間：R6年度～R10年度】 令和10年度の改定時に、日本遺産趣旨及び本地域活性化計画を踏まえた反映を行う。	山形県
②	第3次おもてなし山形県観光計画	【現計画期間：R7年度～R11年度】 令和11年度の改定時に、日本遺産趣旨及び本地域活性化計画を踏まえた反映を行う。	山形県
③	第2期鶴岡市総合計画(後期基本計画)	【現計画期間：R6年度～R10年度】 令和10年度の改訂時に、日本遺産趣旨及び本地域活性化計画を踏まえた反映を行う。	鶴岡市
④	第7次西川町総合計画	【現計画期間：R5年度～R12年度】 令和12年度の改訂時に、日本遺産趣旨及び本地域活性化計画を踏まえた反映を行う。	西川町
⑤	庄内町観光振興計画	【現計画期間：R5年度～R9年度】 令和9年度の改訂時に、日本遺産趣旨及び本地域活性化計画を踏まえた反映を行う。	庄内町
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			11件
2023	行政計画への位置付け数		11件
2024			11件
2025	行政計画への位置付け数		11件

2026	行政計画への位置付け数	11 件
2027	行政計画への位置付け数	11 件
2028	行政計画への位置付け数	11 件
2029	行政計画への位置付け数	11 件
2030	行政計画への位置付け数	11 件
事業費	2025 年度：0 千円 2026 年度：0 千円 2027 年度：0 千円	
継続に向けた事業設計	計画期間内に改訂時期を迎える計画に改めて日本遺産の位置づけを明記し、継続的な事業を行うための行政的な担保を図る。	
事業費	2028 年度：0 千円 2029 年度：0 千円 2030 年度：0 千円	
継続に向けた事業設計	計画期間内に改訂時期を迎える計画に改めて日本遺産の位置づけを明記し、継続的な事業を行うための行政的な担保を図る。	

(7) - 3 人材育成			
(事業番号 3 - A)			
事業名	出羽三山文化を守る次世代の担い手確保事業		
概要	【柱 2 - ①関連】出羽三山文化を守る次世代の担い手確保に向けて、将来的に日本遺産事業に携わる地域プレイヤーを獲得するため、高校生、大学生及び企業の若者参画、地域外に住む出羽三山地域への関心層を対象とした地域プレイヤーとの交流機会の創出を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	高校生、大学生等の若者による出羽三山の魅力発信事業	高校生や大学生などによる若者視点での出羽三山の魅力発信事業を行う。フィールドワーク受入による出羽三山「生まれかわりの旅」体験プログラムの磨き上げ等につなげていく。	協議会
②	地域プレイヤーとの交流機会の創出事業	地域外に住む出羽三山地域への関心層を対象に、地域プレイヤーとの交流機会創出事業を実施する。また、地域のガイド団体と連携し、(事業番号 3 - B)①のガイド団体の取組みに参加してもらう事で、将来的なガイドの担い手確保につなげていく。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			1 人
2023	本事業への参画者数		12 人
2024			12 人
2025	本事業への参画者数		10 人
2026	本事業への参画者数		10 人
2027	本事業への参画者数		15 人
2028	本事業への参画者数		15 人
2029	本事業への参画者数		20 人
2030	本事業への参画者数		20 人

事業費	2025年度：300千円 2026年度：300千円 2027年度：300千円
継続に向けた事業設計	地域プレーヤーとも協力しながら、高校生、大学生等の若者が出羽三山地域、文化と関わる機会を創出し、関係人口の拡大や将来的な出羽三山文化を守る担い手確保を目的とする収益事業と異なる性質を持つ事業であることから、協議会事業の重要な柱として負担金を活用し事業を企画・実施していく。
事業費	2028年度：400千円 2029年度：400千円 2030年度：400千円
継続に向けた事業設計	協議会事業の重要な柱として負担金を活用し事業を企画・実施していくが、中長期的には、ガイドをはじめとした出羽三山文化を守る担い手確保など体制の整備、強化につなげていく。

(事業番号3-B)

事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」ガイド等養成、体制強化事業		
概要	【柱1-③、柱3-②関連】地域のガイド団体等を対象として出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーを活用したガイド技術向上、ガイド利用拡大に向けた取組みなどの実施を通して、来訪者の満足度向上やガイド団体の体制強化につなげていく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産ガイド養成	地域のガイド団体を対象として、インバウンド、若者等の多様化する観光客の目線に合わせ、来訪者の興味を惹きつけるガイド技術向上等の研修会を実施し、各ガイド団体の持つノウハウ及び各エリアの魅力の共有や来訪歴に応じた説明手法の検討を行う事で、ガイド利用者の満足度向上とリピーターの獲得につなげる。 【想定する地域のガイド団体】 いでは観光ガイドの会・きよかわ観光ガイドの会（羽黒山エリア）、月山観光ガイドの会・月山ガイド協会（月山エリア）、六十里越街道山船頭人協会・六十里越街道案内人クラブ・（湯殿山エリア）	構成団体 ・ 協議会
②	ガイド利用拡大・ガイド団体体制強化事業	○ガイド情報の整備、充実 ガイド団体、観光協会のHP及び日本遺産「出羽三山」ポータルサイトなどの様々なチャンネルでガイド利用の促進に向けガイド情報の充実を図る。ポータルサイトでは、出羽三山地域のガイド情報の他、若者の視点からの季節ごとの見どころや多言語での発信を通して、リピーターの獲得や地域周遊、若者、インバウンド客の利用拡大につなげていく。 ○多言語解説の整備 音声ガイドや二次元バーコードを活用したWeb上での解説文の提供など補助ツールを活用した多言語解説の環境整備などガイド機能の充実の取組みを検討、実施していく。 ○ガイド団体体制強化 ①②の取組みを通して、利用者拡大と収益の増加を図り、ガイド人材の確保、掘起しにつなげていく。	構成団体 ・ 協議会

③	山形おもてなしドライバー検定	山形おもてなしドライバー検定協議会と連携し、観光客と接する機会の多いタクシードライバーを対象として、観光知識と適切な接客サービスの提供ができる人材の育成・確保のための認定研修会、認定試験を実施する。日本遺産の認定ストーリーを検定試験や研修会の内容に取り入れる事で、地域内の交通事業者に対する認定ストーリーの理解向上、来訪者の満足向上を図る。	山形県
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	地域のガイド利用料収入		5,172千円
2023			4,563千円
2024			(集計中)
2025	地域のガイド利用料収入	4,600千円	
2026	地域のガイド利用料収入	4,750千円	
2027	地域のガイド利用料収入	4,900千円	
2028	地域のガイド利用料収入	5,190千円	
2029	地域のガイド利用料収入	5,490千円	
2030	地域のガイド利用料収入	5,780千円	
事業費	2025年度：1,500千円 2026年度：1,500千円 2027年度：4,500千円		
継続に向けた事業設計	ガイド人材のスキルアップやガイド機能の充実を進めることにより、ガイド利用による満足度の高い出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリー体験を来訪者に提供するための、地域全体の取組みであるため、自治体の財源も活用しながら実施する。また、②の多言語解説の整備については、文化庁の補助金の活用を視野にいれながら、取り組んでいく。		
事業費	2028年度：1,500千円 2029年度：1,500千円 2030年度：1,500千円		
継続に向けた事業設計	①②の取組みを進めることにより、収益の増加やガイド人材の確保、掘起しなど体制の強化につなげ、将来的な自立・自走につなげていく。		
(事業番号3-C)			
事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」構成文化財保存・活用団体の組織強化		
概要	【柱2-②、柱3-③関連】出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーを地域全体にわたって来訪者に体験してもらうため、更なる磨上げが課題となっている西川町及び庄内町エリアを中心とした構成文化財の保存・活用を行う団体の組織強化を図る。団体は各構成文化財の維持管理だけでなく、ガイド団体が参画又は自らガイドを担う組織であることから、ガイド利用の拡大に向けた取組みも併せて実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	出羽の古道六十里越街道会議運営	構成文化財の六十里越街道について、事業推進母体である出羽の古道六十里越街道会議を運営する。令和3年度策定のステップアップビジョンに基づくアクションプランを官民一体で推進するとともに、フォーラムの開催により街道利用やガイド利用の拡大等の諸課題の解決を目指す。	西川町・鶴岡市朝日庁舎

②	清川歴史公園管理運営委員会組織強化	構成文化財の清川歴史公園を管理する清川歴史公園管理運営委員会の組織体制を強化する事を目的として、観光案内部会や食堂・売店部会におけるガイドスキルアップや情報発信強化のための研修会に参加する。また後継者の確保に向けた会員募集等の効果的手法の検討会を開催する。	庄内町
③	地域おこし協力隊配置	ガイダンス施設である西川町歴史文化資料館に学芸員（地域おこし協力隊）を配置し、歴史資料の調査、整理、保存作業、館での提示など六十里越街道の普及啓発を行う。	西川町
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	六十里越街道、清川関所、羽黒古道のガイド利用件数		55 件
2023			70 件
2024			45 件
2025	六十里越街道、清川関所のガイド利用件数		50 件
2026	六十里越街道、清川関所のガイド利用件数		55 件
2027	六十里越街道、清川関所のガイド利用件数		60 件
2028	六十里越街道、清川関所のガイド利用件数		60 件
2029	六十里越街道、清川関所のガイド利用件数		70 件
2030	六十里越街道、清川関所のガイド利用件数		70 件
事業費	2025 年度：5,600 千円 2026 年度：5,600 千円 2027 年度：1,600 千円		
継続に向けた事業設計	構成文化財を保存・活用する組織として、既に事業の企画・運営は地域住民主体となり、また組織運営等は官民一体となった推進体制が図られており、引き続き構成団体の資金を活用しながら取組みを実施していく。		
事業費	2028 年度：1,600 千円 2029 年度：1,600 千円 2030 年度：1,600 千円		
継続に向けた事業設計	引き続き構成団体の資金を活用しながら取組みを実施し、組織運営の継続、安定につなげていく。		

(7) - 4 整備			
(事業番号 4 - A)			
事業名	構成文化財六十里越街道の整備		
概要	【柱 2 - ③関連】構成文化財の六十里越街道について、ルート整備と一部災害箇所への復旧を行い、利用者の利便性向上と復旧後の満足度の向上を図る。また、構成団体所有の構成文化財について保存修理を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	六十里越街道ルート整備	構成文化財である六十里越街道について、保存活用団体のアルゴディア研究会及び六十里街道保存推進委員会と一体となり、草刈りやトイレ清掃等一体的なルート整備を行い、来訪者の利便性向上と満足度の向上を図る。	鶴岡市朝日庁舎・西川町
②	六十里越街道災害復旧	西川町側の令和 2 年度豪雨による被災箇所（四ツ谷川等）の復旧工事を行い、来訪者の利便性向上と安全確保及び復旧後の満足度向上を図る。 ※事業主体は国、町では連絡町道復旧事業を実施	西川町

③	旧遠藤家住宅保存修理工事の実施	構成文化財である山形県指定有形文化財「旧遠藤家住宅」の茅葺屋根の葺替や躯体修理に係る実施設計（R7年度）、本工事（R8～10年度）を実施する。	鶴岡市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			3,000人
2023	六十里越街道来訪者数		3,100人
2024			3,000人
2025	六十里越街道来訪者数		3,120人
2026	六十里越街道来訪者数		3,210人
2027	六十里越街道来訪者数		3,300人
2028	六十里越街道来訪者数		3,390人
2029	六十里越街道来訪者数		3,480人
2030	六十里越街道来訪者数		3,580人
事業費	2025年度：4,500千円 2026年度：36,100千円 2027年度：26,100千円		
継続に向けた事業設計	実施主体である鶴岡市及び西川町において、構成文化財の保存・活用団体である六十里越街道保存推進委員会（西川町）、アルゴディア研究会（鶴岡市）と協力して官民一体で実施する。六十里越街道は、豊かな自然や歴史、文化などが混在する貴重な観光資源と位置付けられていることから、自治体の支援を受けて整備しており、短期的には継続して現在の実施体制としていく。また、構成文化財である「旧遠藤家住宅」の茅葺屋根の葺替や躯体修理に係る実施設計、本工事について、一部県補助金を受けながら、鶴岡市において実施する。		
事業費	2027年度：26,100千円 2029年度：1,100千円 2030年度：1,100千円		
継続に向けた事業設計	短中長期的には、六十里越街道を訪れる来訪者からの収入や整備協力金によって事業を構築する仕組みを検討していく。		

（事業番号4-B）

事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」二次交通支援事業		
概要	【柱1-③関連】アクセスの難しい湯殿山・月山周辺エリアへの二次交通支援を行い、来訪者の利便性向上や周遊拡大を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	湯殿山二次交通支援	出羽三山詣でや月山縦走の登山客の観光の利便性を確保するため、公共交通手段のない湯殿山へのアクセス対策として、鶴岡駅と湯殿山を結ぶ観光ハイヤー及びシャトルバスの二次交通の運行を支援する。	鶴岡市
②	西川町二次交通支援事業	月山地域を含む町内宿泊施設への誘客を促し、県内陸側から出羽三山を訪れる観光宿泊客の利便性を図るため、宿泊時における山形空港やJRさくらんぼ東根駅からの乗合タクシーや、県内（一部東北管内）レンタカーによる二次交通支援を実施する。	西川町
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	湯殿山、月山エリアの構成文化財観光入込数		178千人

2023		253 千人
2024		(集計中)
2025	湯殿山、月山エリアの構成文化財観光入込数	261 千人
2026	湯殿山、月山エリアの構成文化財観光入込数	268 千人
2027	湯殿山、月山エリアの構成文化財観光入込数	276 千人
2028	湯殿山、月山エリアの構成文化財観光入込数	283 千人
2029	湯殿山、月山エリアの構成文化財観光入込数	291 千人
2030	湯殿山、月山エリアの構成文化財観光入込数	299 千人
事業費	2025 年度：4,500 千円 2026 年度：4,500 千円 2027 年度：4,500 千円	
継続に向けた事業設計	湯殿山・月山周辺エリアは、主要駅や空港からのアクセスが難しい環境にあるため、自治体や事業者からの支援により継続したアクセス整備を行うことで、利便性向上と周遊促進を図る。	
事業費	2028 年度：4,500 千円 2029 年度：4,500 千円 2030 年度：4,500 千円	
継続に向けた事業設計	短期的には、自治体や事業者からの支援により事業を継続していくが、来訪者ニーズに合わせたアクセス整備の検討を図りながら、中長期的には、来訪者からの収入によって事業を構築する仕組みを検討していく。	

(7) - 5 観光事業化			
(事業番号 5 - A)			
事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」体験型コンテンツ充実事業		
概要	【柱 1 - ④、柱 3 - ④関連】出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーを活用した精神文化体験メニューの充実を図り、出羽三山地域全体の周遊拡大につなげる。満足度の高い体験を来訪者に提供する事により、出羽三山「生まれかわりの旅」のファン・リピーターの獲得を目指す。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	石段詣	出羽三山神社本殿へと続く 2,446 段の石段を「お注連」をかけて歩き、羽黒山の自然を感じながら出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーを気軽に体験できる参拝プログラム「石段詣」を実施する。出羽三山神社及びつるおか観光ナビに設けたランディグページや専用チラシ等で告知し、羽黒山随神門入り口または山頂にて提供する。(主催：出羽三山神社、協力：DEGAM 鶴岡)	出羽三山神社 ・ DEGAM 鶴岡
②	山伏修行体験塾	山伏の精神文化を実際に体感する本格的な修行体験プログラム(日帰り～二泊三日)を宿坊街との連携により実施する。白装束を身にまとい、修行の一端(滝行・火渡り等)や出羽三山の自然と修験道の学習をプログラムとして提供する。羽黒町観光協会HPの専用ページにて告知・申込受付を行う。	羽黒町観光協会
③	出羽三山の精進料理を活かした旅行企画	宿坊街を含めた羽黒山周辺エリアの滞在時間増加につなげるため、県内外の旅行会社とタイアップし、宿坊等による出羽三山の精進料理の提供と羽黒山ガイドを組み合わせた出羽三山「生	出羽三山精進料理プロジェクト ・

		まれかわりの旅」のストーリーを体験できる旅行企画を行い、タイアップした旅行会社サイト等による告知と販売を行う。	羽黒町 観光協会
④	国宝羽黒山五重塔 ライトアップ	国宝羽黒山五重塔をライトアップすることにより昼とは違い幽玄な世界を参拝できるようにすることで、通常行くことができない夜間の魅力をはかり新たなナイトツアーの造成や顧客の獲得を目指す。	実行委員会 ・ 羽黒町観光協会
⑤	「ゆどのの山塩」関連 商品の開発、販売	株式会社みやま湯殿の山塩と連携した「ゆどのの山塩」の関連商品を軸とした新製品の開発を実施する。開発した商品を道の駅月山や産直あさひ・ゲー等にて販売する。	あさひむら 特産品開発 協議会
⑥	「出羽三山の山菜」関連 商品の開発・販売	製麺業者と連携し、出羽三山の山菜を練り込んだ「そば」や「パスタ」の関連商品を軸とした新商品の開発を実施する。開発した商品を道の駅にしかわや立寄施設で販売するほか、出羽三山を巡る登拝口の宿泊施設において、通常の上菜料理と合わせて新商品を素材とする特別メニューとして振る舞い、自然の恵みを活かした特別感あふれるおもてなしにより、心身のリフレッシュを図るプログラムとして提供する。	民間事業者 ・ (一社)月山 朝日観光協会
⑦	構成文化財を活用した 旅行・体験コンテンツ の造成	月山等の構成文化財を活用した旅行商品、体験コンテンツを造成し、販売する。	民間事業者 ・ (一社)月山 朝日観光協会
⑧	地域周遊プログラムの 磨き上げ・セールス	(事業番号2-A)と連動し、①～⑦の取組を含む、来訪者ニーズを踏まえた体験コンテンツ磨き上げや構成文化財、ストーリーを活かした出羽三山地域全体の周遊プログラムの磨き上げ、情報発信等を行う。また、協議会として構成団体が持つコンテンツを把握・共有し、旅行会社への提案資料(周遊プログラム、コンテンツ内容、料金、手数料等含む)の作成を行うとともに、やまがた観光キャンペーン推進協議会とも連携してセールスを行う。	構成団体 ・ 協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	構成文化財の来訪者数		735千人
2023			854千人
2024			(集計中)
2025	構成文化財の来訪者数		880千人
2026	構成文化財の来訪者数		905千人
2027	構成文化財の来訪者数		931千人
2028	構成文化財の来訪者数		956千人
2029	構成文化財の来訪者数		982千人
2030	構成文化財の来訪者数		1,008千人
事業費	2025年度：10,000千円 2026年度：10,000千円 2027年度：10,000千円		

継続に向けた事業設計	来訪者に対して満足度の高いストーリー体験を継続して提供するために、(事業番号2-A)と連動することで、来訪者ニーズを踏まえた体験コンテンツ磨上げや商品造成につなげる。①では収益の一部が石段整備に充てられている。収益の一部を構成文化財の保存に還元する先行事例として、地域全体の取組みとなるよう促していく。
事業費	2028年度：10,000千円 2029年度：10,000千円 2030年度：10,000千円
継続に向けた事業設計	既に民間事業者において継続的に提供されているプログラムも含め、国内外から選ばれるための観光・周遊コンテンツの充実や戦略的なプロモーションなどを行うことにより、誘客促進を図り、更なる収益化につなげ、事業継続が図られるようにしていく。

(事業番号5-B)

事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」インバウンドプロモーション強化		
概要	【柱1-⑤、柱3-④関連】出羽三山「生まれかわりの旅」を活用し、出羽三山の精神文化に関心の高い欧米豪をターゲットとした、インバウンド誘客を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	インバウンドプロモーション	DEGAM 鶴岡と連携し、出羽三山の精神文化に関心の高い欧米豪をターゲットとした多言語デジタルパンフレットの作製、多言語ガイドの育成等の受入環境を整備するとともに、海外メディアや旅行会社を招聘し出羽三山の魅力発信を行い、インバウンド誘客を図る。	鶴岡市 ・ DEGAM 鶴岡
②	欧米市場における富裕層を中心とした訪日関心層の東北への誘客促進事業	東北観光推進機構等と連携し、欧米市場の訪日関心層をターゲットに、メディアや旅行会社を招聘し、本県の精神文化に関する山伏修行体験等の出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリー体験ができるコンテンツを含んだ行程を巡り、日本遺産である出羽三山の更なる認知度向上・誘客促進を図る。	山形県 ・ 協議会
③	インバウンド向けモニター体験会の開催及び広域周遊プロモーション	外国人を対象とした、構成文化財やストーリーを体験するモニター体験会などを開催し、地域との連携、ガイドの利用等の検証などを進めながら、出羽三山地域全体の周遊プログラムの磨き上げを行う。また、県内の他地域の観光地(山寺、銀山温泉など)からの広域周遊に向けたプロモーションを実施する。	構成団体 ・ 協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	鶴岡市外国人延べ宿泊者数		2,744人
2023			9,808人
2024			(集計中)
2025	鶴岡市外国人延べ宿泊者数		12,750人
2026	鶴岡市外国人延べ宿泊者数		15,690人
2027	鶴岡市外国人延べ宿泊者数		18,640人
2028	鶴岡市外国人延べ宿泊者数		21,580人
2029	鶴岡市外国人延べ宿泊者数		24,520人
2030	鶴岡市外国人延べ宿泊者数		27,460人

事業費	2025年：6,100千円 2026年：6,100千円 2027年：6,100千円
継続に向けた事業設計	構成団体の資金を基に、アドベンチャートラベル（AT）の3つの要素を全て持ち合わせている出羽三山について、情報発信及び商談会への参加等、積極的に魅力発信を行っていく。あわせて多言語ガイドの養成やインバウンド向けモニター体験会の開催及び広域周遊プロモーションを実施する事により、受入環境整備と体験提供の一体的な取組みとすることで、地域全体への誘客促進につなげていく。
事業費	2028年度：6,100千円 2029年度：6,100千円 2030年度：6,100千円
継続に向けた事業設計	インバウンドから選ばれるための観光・周遊コンテンツの充実や戦略的なプロモーション、観光客の高付加価値化傾向への対応などを行うことにより、誘客促進を図り、地域全体への更なる収益化につなげ、事業継続が図られるようにしていく。

(事業番号5-C)

事業名	他の日本遺産との連携による周遊促進事業		
概要	【柱1-④⑤関連】他の日本遺産と連携した誘客事業を実施することにより、地域の周遊促進を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	鶴岡市3つの日本遺産を核とした周遊促進	出羽三山「生まれかわりの旅」推進協議会、(仮称)鶴岡市日本遺産推進協議会の連携を強化し、紙媒体やインターネットによる情報発信、各種イベントにおけるPRを行うとともに、3つの日本遺産を巡る旅行商品造成等の取組を行うことで市内の周遊促進を図る。	鶴岡市 ・ DEGAM 鶴岡
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	鶴岡市観光入込数		4,280千人
2023			4,743千人
2024			(集計中)
2025	鶴岡市観光入込数		4,890千人
2026	鶴岡市観光入込数		5,030千人
2027	鶴岡市観光入込数		5,170千人
2028	鶴岡市観光入込数		5,310千人
2029	鶴岡市観光入込数		5,450千人
2030	鶴岡市観光入込数		5,600千人
事業費	2025年度：9,000千円 2026年度：9,000千円 2027年度：9,000千円		
継続に向けた事業設計	鶴岡市が保有する他の日本遺産推進組織やDMOと連携し、地域への経済効果波及の創出につなげる。		
事業費	2028年度：9,000千円 2029年度：9,000千円 2030年度：9,000千円		
継続に向けた事業設計	鶴岡市が保有する他の日本遺産推進組織やDMOと連携し、地域への経済効果波及の創出につなげる。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	学校等との連携による出羽三山「生まれかわりの旅」普及啓発事業		
概要	【柱2-⑤関連】出羽三山地域の歴史文化や構成文化財への関心や理解の向上を図り、郷土を誇る心を醸成するとともに、自ら語れる人材育成を目指すため、出羽三山地域の小学校・中学校・高校、住民を対象として、出羽三山「生まれかわりの旅」を活用した普及啓発事業を実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	出羽三山 伝統文化体験事業	親子で地域の伝統文化を体験する機会を創出し郷土を誇る心の醸成を図る。このことにより、伝統文化の担い手の確保のみならず、地域行事への参加等を促すことで、参加者として文化の継承に関わる人材も確保していく。	構成団体 ・ 協議会
②	副読本の制作・配布	社会科副読本に日本遺産を掲載し、地域内の小学校3年生向けに配布し、学校での課外学習活動につなげる。	鶴岡市 ・ 庄内町
③	ふるさと学校	町内13地域住民を特別講師とした小学校児童に対する出羽三山信仰に係る歴史講話や神社見学等の地域伝統・文化の校外学習を実施する。将来的には、日本遺産ストーリーを理解する住民として、来訪者にガイドできる人材を増加することを目的とする。	西川町
④	古道歩き体験	朝日地域の小・中学生を対象として、アルゴディア研究会と連携した、六十里越街道歩き体験を校外学習の一環で実施し街道の魅力を語れる人材育成を目指す。	鶴岡市 朝日庁舎
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	地域住民が日本遺産を誇りに思う割合 （「とても感じる」、「感じる」と回答した方の割合）		94%
2023			92%
2024			97%
2025	地域住民が日本遺産を誇りに思う割合 （「とても感じる」、「感じる」と回答した方の割合）		90%
2026	地域住民が日本遺産を誇りに思う割合 （「とても感じる」、「感じる」と回答した方の割合）		90%
2027	地域住民が日本遺産を誇りに思う割合 （「とても感じる」、「感じる」と回答した方の割合）		90%
2028	地域住民が日本遺産を誇りに思う割合 （「とても感じる」、「感じる」と回答した方の割合）		90%
2029	地域住民が日本遺産を誇りに思う割合 （「とても感じる」、「感じる」と回答した方の割合）		90%
2030	地域住民が日本遺産を誇りに思う割合 （「とても感じる」、「感じる」と回答した方の割合）		90%
事業費	2025年度：750千円 2026年度650千円 2027年度：650千円		
継続に向けた 事業設計	出羽三山地域の歴史文化や構成文化財への関心や理解の向上を図り郷土を誇る心を醸成するとともに、自ら語れる人材を育成する観点から、持続的な取組とするために自治体予算により実施する。各取組みにおいて、出羽三山や認定ストーリーを説明に取り入れもらおう等、ストーリーの地域浸透が図られるよう工夫した取組みとしていく。		

事業費	2028年度：550千円 2029年度：550千円 2030年度：550千円
継続に向けた事業設計	引き続き、自治体予算により実施するが、出羽三山や認定ストーリーを説明に取り入れもらう等、ストーリーの地域浸透が図られるよう工夫した取組みとしていく。

(事業番号6-B)

事業名	構成文化財を活用した出羽三山「生まれかわりの旅」に関心を持つきっかけとなる体験イベント等
概要	【柱2-⑥関連】構成文化財を活用した体験イベントを開催し、出羽三山「生まれかわりの旅」に関心を持つきっかけを創出する。

	取組名	取組内容	実施主体
①	出羽三山精進料理魅力発信事業	出羽三山の精進料理を観光振興・地域づくりに活用し大切な食文化を継承するため、大都市での出羽三山食文化講演会・地域特産品物販等のイベントや、精進料理教室の企画・開催、食材や食文化への啓発活動を実施する。	出羽三山精進料理プロジェクト ・ 羽黒町観光協会
②	国宝羽黒山五重塔ライトアップ【再掲】	国宝羽黒山五重塔をライトアップすることにより昼とは違い幽玄な世界を参拝できるようにすることで、通常行くことができない夜間の魅力をはかり新たなナイトツアーの造成や顧客の獲得を目指す。	実行委員会 ・ 羽黒町観光協会
③	六十里越街道古道歩き	アルゴディア研究会や(株)月山あさひ振興公社と連携し、六十里越街道や周辺の構成文化財や周辺施設等を巡る、古道歩き体験や六十里越街道でのスタンプラリーを実施する。	あさひむら観光協会
④	月山龍神マラソン	日本百名山の「月山」、平成の名水百選「立谷沢川流域」の自然を満喫、出羽三山、歴史の里清川の歴史文化を体感し、名水の恵みを受けた「日本一おいしい米の里」庄内の秋の味覚を楽しんでもらいながら、地域住民との触れ合いを大切にマラソン大会を実施することで観光交流人口の拡大と地域物産振興等により地域活性化を図る。	庄内町 ・ 庄内町観光協会
⑤	奥の細道羽黒山全国俳句大会	本大会を通じて、現代俳句の郷土への普及と、全国に俳句の聖地として、出羽三山の歴史と文化を発信する。一般の部と子どもの部の投句を開催することで、多世代にわたる普及啓発機会とする。	出羽三山神社 ・ 鶴岡市
⑥	出羽三山の自然等に係る展示・体験事業	出羽三山の自然景観や地形、気候の特色、動植物の生態などの展示・解説や自然とふれあうきっかけづくりのための体験会等を実施する。	月山ビジターセンター

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	日本遺産ストーリーの認知度（県内外）	84%
2023		82%
2024		79%
2025	日本遺産ストーリーの認知度（県内外）	84%
2026	日本遺産ストーリーの認知度（県内外）	85%
2027	日本遺産ストーリーの認知度（県内外）	86%

2028	日本遺産ストーリーの認知度（県内外）	87%
2029	日本遺産ストーリーの認知度（県内外）	88%
2030	日本遺産ストーリーの認知度（県内外）	89%
事業費	2025年度：14,500千円 2026年度：14,500千円 2027年度：14,500千円	
継続に向けた事業設計	観光協会等を中心としてこれまで当該事業の収益や地域事業者等からの協賛金等により継続して実施している事業であり、今後も引き続き継続して事業を実施する。イベント開催時の告知や配布プログラムの中で出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーの解説等も加えるなどにより、ストーリーの地域浸透が図られるよう工夫した取組みとしていく。	
事業費	2028年度：14,500千円 2029年度：14,500千円 2030年度：14,500千円	
継続に向けた事業設計	引き続き継続して事業を実施する。イベント開催時の告知や配布プログラムの中で出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリーの解説等も加えるなどより、ストーリーの地域浸透が図られるよう工夫した取組みとしていくとともに、	

(事業番号6-C)

事業名	いでは文化記念館を通じた出羽三山「生まれかわりの旅」普及啓発事業
概要	【柱2-⑤関連】出羽三山「生まれかわりの旅」の拠点施設であるいでは文化記念館を通じた普及啓発事業を実施する。

	取組名	取組内容	実施主体
①	企画展の開催	幼児から高齢者まで幅広い世代を対象とした、出羽三山の歴史と文化を伝える企画展を開催する。	羽黒町観光協会 ・ 鶴岡市
②	古文書解説・歴史講座	大学生から高齢者を対象とした、出羽三山に関する歴史的資料を読み解き、出羽三山の歴史を広く学ぶ機会を創出する。	羽黒町観光協会 ・ 鶴岡市
③	羽黒山歴史探訪	小学生から高齢者までを対象とした、出羽三山信仰を連綿と支えてきた手向地区をフィールドに地域に残る歴史や宿坊を訪ねる街歩きイベントを実施する。	羽黒町観光協会 ・ 鶴岡市
④	いではわくわくワークショップ	小学生から高齢者までを対象とした、さまざまな手作り体験を通して出羽三山の歴史や文化に触れてもらうワークショップを開催する。	羽黒町観光協会 ・ 鶴岡市

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	いでは文化記念館の入館者数	30,263人
2023		23,641人
2024		(集計中)
2025	いでは文化記念館の入館者数	27,810人
2026	いでは文化記念館の入館者数	28,620人
2027	いでは文化記念館の入館者数	29,430人

2028	いでは文化記念館の入館者数	30,240人
2029	いでは文化記念館の入館者数	31,050人
2030	いでは文化記念館の入館者数	31,860人
事業費	2025年度：1,600千円 2026年度：1,600千円 2027年度：1,600千円	
継続に向けた事業設計	羽黒町観光協会は、羽黒地域の観光に関わる多種多様な会員からの会費及び鶴岡市からの補助金、当該事業の収益等を主な財源として、協会と地域住民、行政が一体となって活動している。協会の予算により日本遺産「出羽三山」の拠点施設として、出羽三山の歴史と文化の伝承など様々な事業を実施していく。	
事業費	2028年度1,600千円 2029年度：1,600千円 2030年度：1,600千円	
継続に向けた事業設計	引き続き、協会の予算により日本遺産「出羽三山」の拠点施設として、出羽三山の歴史と文化の伝承など様々な事業を実施していく。	

(事業番号6-D)

事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」教育旅行推進事業		
概要	【柱2-⑤関連】教育旅行誘致を目的として、日本遺産のストーリーを体験するプログラムや周知を図るためのパンフレット等整備を行い、エージェント・学校関係者等へのはたらきかけを実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	教育旅行向け冊子の製作	教育旅行用デジタルパンフレット「まなぶつるおか」を更新し、県内外の教育機関、旅行エージェント等に配布、誘致活動を実施する。	DEGAM 鶴岡
②	教育旅行推進事業	山形県教育旅行誘致協議会、東北観光推進機構と連携し、エージェント・学校関係者に向けて、本県の強みを活かした教育旅行メニューの提案による誘致・広報活動の展開、特設サイト「探究するなら山形県」における情報発信を行う。	山形県 ・ 山形県観光物産協会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	教育旅行参加者数		1,557人
2023			542人
2024			(集計中)
2025	教育旅行参加者数		550人
2026	教育旅行参加者数		600人
2027	教育旅行参加者数		600人
2028	教育旅行参加者数		650人
2029	教育旅行参加者数		650人
2030	教育旅行参加者数		700人
事業費	2025年度：2,500千円 2026年度：2,500千円 2027年度：2,500千円		
継続に向けた事業設計	コロナ禍により、羽黒山等への近県からの教育旅行は増加したが、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い2023年度以降は、近県からの教育旅行は平常化している。 そのため、新たなターゲットを明確にした誘致活動など持続的な取組みが求められることから、引き続き、自治体予算を活用し、誘致活動等の事業の展開を図っていく。		

事業費	2028年度：2,500千円 2029年度：2,500千円 2030年度：2,500千円
継続に向けた事業設計	引き続き、自治体予算を活用し、誘致活動等の事業の展開を図っていくが、並行して、魅力ある体験型コンテンツの充実を図るなどにより教育旅行の受入拡大につなげていく。

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	出羽三山「生まれかわりの旅」戦略的情報発信事業
概要	【柱1関連】構成団体及び協議会が運用するHPやSNS等を活用し、出羽三山「生まれかわりの旅」のストーリー体験を来訪者に提供するまでの動線を意識した情報発信を行う。また、日本遺産イベントを活用し出羽三山地域の魅力の発信を行う。

	取組名	取組内容	実施主体
①	国内向け HP・SNS の運用・情報発信	○HPの運用・情報発信 協議会や構成団体が運用するHP（つるおか観光ナビ等）で構成文化財や周遊・体験型コンテンツ、イベント等に関する情報の充実を図りながら継続して発信する。また、構成団体や協議会の情報発信の内容等に連動し、県観光情報総合サイト内で出羽三山「生まれかわりの旅」の情報発信を行う。 ○SNSの運用・情報発信 協議会や構成団体が運用するSNSでは、若年層を意識した情報発信を行う。	構成団体 ・ 協議会
②	国外向け HP・SNS の運用・情報発信	欧米豪をターゲットに、構成団体及び協議会のHP（つるおか観光ナビ英語版等）やSNS（Land of Dewa 等）による出羽三山の精神文化や自然等を活かした体験コンテンツやアクセス情報等を発信する。 また、「STAY YAMAGATA」（県観光情報総合サイト多言語版）や本県の海外現地コーディネーターによる公式SNS等を用いた情報発信を実施する。	構成団体 ・ 協議会
③	日本遺産イベントを活用した情報発信	日本遺産フェスティバルやツーリズム EXPO ジャパン等のイベントにおいて、出羽三山地域のPRのほか、ワークショップや出羽三山の関連商品の販売を通して、出羽三山地域の魅力の発信を行う。	構成団体 ・ 協議会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	協議会公式ポータルサイト PV 数（単年度）	106,019 件
2023		122,285 件
2024		（集計中）
2025	協議会公式ポータルサイト PV 数（単年度）	120,000 件
2026	協議会公式ポータルサイト PV 数（単年度）	125,000 件
2027	協議会公式ポータルサイト PV 数（単年度）	130,000 件
2028	協議会公式ポータルサイト PV 数（単年度）	135,000 件

2029	協議会公式ポータルサイト PV 数 (単年度)	140,000 件
2030	協議会公式ポータルサイト PV 数 (単年度)	145,000 件
事業費	2025 年度 : 600 千円 2026 年度 700 千円 2027 年度 : 300 千円	
継続に向けた事業設計	協議会や構成団体が運用する HP、SNS であることから、協議会及び構成団体の予算により実施する。実際の来訪や体験、再来訪につながるよう、ターゲットやニーズに応じた情報発信を行う。また、セッション数の高い県観光情報総合サイト等の活用やメディアとの連携により、スケールメリットを活かした費用対効果の高い取組みにしていく。	
事業費	2028 年度 : 300 千円 2029 年度 : 300 千円 2030 年度 : 300 千円	
継続に向けた事業設計	引き続き、協議会及び構成団体の予算により実施していくが、国内外から出羽三山地域を選んでもらうための効果的、魅力的な情報発信を行い、誘客・周遊促進につなげていく。	